

I 総括報告

地域福祉の推進では、地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制整備について、市担当課と連携を密にしながら、特に重層的支援体制整備事業移行準備事業において、各地域包括支援センター、各相談機関等とともに、多機関協働による支援会議、アウトリーチ等の展開を図りながら、支援体制の構築を進めました。また、コミュニティソーシャルワーク機能の充実を図るため、各福祉センターに配置している地域福祉ワーカー（コミュニティソーシャルワーカー）においては、2,138件のケース対応や課題解決に取り組みながら、社会福祉協議会に求められている今日の役割や期待を意識した支援を展開しました。さらに、第3次地域福祉活動計画や地域支え合いプランで掲げた課題について、地域福祉推進基礎組織等とともに住民主体の取組を推進しました。また、鶴岡市社協の事業運営の基本となる「地域福祉活動計画」「発展・強化計画」「事業経営計画」¹それぞれに掲げた課題への取組についても、担当課による進行管理を計画的に行いました。

新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付フォローアップ支援については、借入世帯の情報把握を行いながら継続した支援に努めました。また、成年後見センターの運営事業については、権利擁護支援検討会議の開催や成年後見制度に係る相談対応、情報発信等を進めながら中核機関としての機能充実に努めました。

法人の事業経営の現状では、令和6年度も継続してプロジェクトチームによる事業経営改善に向けた検討を重ね、結果、令和6年度収支決算は実質、資金収支差額が約5,745万円で令和元年度から続いていた赤字から脱却することができました。しかし、本会の経営基盤の柱である介護・障がい福祉サービスの経営環境は厳しい状況が続き、特に通所介護事業の収入の伸び悩みが依然として続いていることから、事業の現状分析を重ねながら事業の見直し、改善を継続して進める必要があります。保育園の統合については、保護者、地域住民のご理解のもと円滑に行うことができました。今後は、園児数の減少による事業収入への影響を注視しながら中期的な視点に立った事業経営に努めます。同時に、事業を安定的に維持・継続するために、また、人材の確保と定着を図るため、給与改善、各種手当等の見直しを行い職員の処遇改善を図りました。

新型コロナウイルス感染状況については、感染症法上5類に移行したことを受け、その対応も緩和されましたが、継続して感染予防対策を講じながら事業継続に努め、2つの事業所で感染が拡大し11日間ほど休業しましたが、事業全体の収入への大幅な影響を回避することができました。

重点事業

(1) 法人運営の強化（経営戦略の確立）

令和5年度に引き続き、厳しい事業経営の状況を打開するために、事業全体の方向性（戦略）を検討するプロジェクトを設置し、改善策を議論しながら令和7年度につなげました。

¹ 「地域福祉活動計画」「発展・強化計画」「事業経営計画」：巻末(P.205～)にそれぞれの計画の体系を掲載。

具体的には保育園、居宅介護支援事業所の統合、生活介護事業の見直し、特別養護老人ホームおおやまの業務改善を行いました。同時に、職員の処遇改善への取組として、正規職員の給料表について4級制から6級制とし、より職位に応じた給与体系とするとともに、令和6年10月に2号級、令和7年4月に通常の2号級に合わせて1号級の臨時昇給を実施し全職員の給与水準の底上げ、管理職・役付手当の引き上げ、新たな手当の新設等に取り組みました。また、職員採用に関わる職員紹介手当の導入、入居施設を対象とした随時の求人を行いながら人材確保対策を講じました。

「発展・強化計画（第3期）」（4年次）に基づき、組織体制とその運営の強化や組織統治（ガバナンス）、労務管理体制の強化に継続して取り組みました。人財育成については、令和5年度に引き続き株式会社ビズアップ総研（WEB研修）の研修プログラムを活用し、特に階層別研修を計画的に実施し法人全体の職員資質の底上げを図り、同時に、キャリアパスについて検討、整理しました。また、役員的外部研修への参加や役員・職員研修会（参加78名）を企画実施し組織運営強化の一助としました。さらに、情報発信の強化への取組の一環として、専門講師による「社会福祉協議会における情報発信の意味（意義）」と題した研修会を実施し、職員の伝えるスキルの向上に努めました。

（2）地域福祉事業の推進

「コミュニティソーシャルワーカーの配置」（市補助事業）並びに「重層的支援体制整備事業移行準備事業」（市委託事業）の展開を通じ、各専門職（機関）と連携を密にし、高齢、障がい、子ども、生活困窮などの分野を超えた包括的な支援体制の構築を進め、これら活動から見えてくる課題の整理、事業評価等を行いながら、コミュニティソーシャルワーク²機能の充実に努めました。また、課題等を踏まえ次年度に向けた取組について市担当課と協議を行いました。

地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」（4年次）、及び「地域支え合いプラン」に掲げた活動目標に基づき、地域福祉の推進に継続して取り組みました。各センターにおける主な活動としては、各関係機関と連携した支援困難世帯の情報共有と包括的な支援体制（ネットワーク）の構築、認知症カフェやサロン活動の展開、「安心カード」の設置、ボランティア講座、福祉学習の開催、地域の支え合い活動への支援等を行いました。

「社会福祉法人の公益的な取組」では、特別養護老人ホームを経営する9つの社会福祉法人からなる連絡会を通じ、支援を必要とする方に対する社会参加支援、公益的取組に関わる情報発信、フードドライブ事業、災害支援活動について取り組みました。

災害への支援については、令和6年1月に発生した能登半島地震、同年7月に発生した県内大雨災害への職員派遣、ボランティア活動の調整を行いながら被災地支援に取り組みました。

² コミュニティソーシャルワーク：援助を個別化するだけでなく、地域（社会）共通の課題と捉え、個人の援助とそれを支える地域（社会）の活動への支援を同時並行的に働きかけていく活動。

(3) 生活支援事業の推進

日常生活自立支援事業については、関係機関、専門機関と連携、調整を密にし、判断能力に不安のある方の日常的な金銭管理等、適正な業務管理に取り組みました。また、同事業の対象者の抱える課題が多様化傾向にあることから、県社協から示された日常生活自立支事業推進方針に基づいた適切な事業推進に努めました。

成年後見事業では、鶴岡市成年後見センター（市委託）の取組として、権利擁護支援検討会議や後見人支援チーム会議等の開催、成年後見制度に関わる広報活動、情報発信、更に、関係機関と連携した相談支援、問題把握に取り組みながら、同センターの機能充実に努めました。同時に、法人後見については、法人後見運営委員会等からの助言を受けながら、後見事務に取り組み、令和7年3月末現在30件の法人後見を受任しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による支援資金借受世帯への対応については、貸付支援相談員の配置（県社協委託）を通じ、償還指導に合わせて生活状況を把握し、生活の安定につながるよう、関係機関と連携しながら継続して支援を行いました。また、貸付支援相談員の一連の取組が評価されたことを受け、全国社会福祉協議会や福島県社会福祉協議会へ情報提供、情報発信を行いました。

(4) 高齢者福祉、障がい者福祉事業の推進

「第三期事業経営計画」（4年次）に掲げた「基本的な視点」と「重点課題」に基づいた取組を計画的に進め、特に、虐待防止、身体拘束適正化に関する会議、研修会、また、サービスに関するアンケート調査結果に基づく業務改善や接遇研修、更に事業継続計画（BCP）の見直しを行うなど、信頼性の高いサービスの提供に努めました。

介護保険事業については、令和5年度に引き続き事業経営会議等を通じ、各事業の経営分析、状況把握に努め、結果、介護保険事業収入が令和5年度の約1,824,271千円に対し、令和6年度が約1,830,319千円で、約6,048千円の増となりました。具体的な状況は、通所介護サービスの延べ利用者数、訪問介護サービスの延べ利用回数がいずれも減少し、特に通所介護の一般型利用者は多少伸びたものの、デイサービスセンターはちもり（認知症対応型）をデイサービスセンターとようら（一般型）へ統合した結果、認知症対応型の利用者が減少したことから、通所介護全体の減少となりました。また、居宅介護支援サービスは、延べケアプラン作成数が増加となりました。さらに、短期入所サービスの定員を26名から24名として2名を入居に転用、居宅介護支援センター愛寿園を居宅介護支援センターとようらに統合するなど、継続して事業の効率化を図るための事業見直しを計画的に進めました。

障害福祉サービスについては、障害福祉事業収入が令和5年度の約378,736千円に対し、令和6年度が約388,452千円で、約9,715千円の増となりました。具体的な状況は、一部の生活介護サービスが増加したものの、全体的には就労継続支援、生活介護サービスは減少し、訪問介護サービスの利用者は微増となりました。障がい福祉サービスは、特に新規利用者の確保が困難な状況を踏まえた各事業の経営分析、状況把握に努め、また、報酬改定に伴いサービス時間変更への対策を検討しながら事業展開を図りました。

(5) 児童福祉事業の推進

保育園の運営体制については、くしびき東部保育園、くしびき南部保育園をくしびき保育園、くしびき西部保育園への統合を計画的に進めることができ、持続可能な保育園運営体制の整備を図りました。

児童館の運営については、5つの児童館の自由来館者数の合計が38,030人を数え、児童館行事等の情報発信の充実を図ったことから、令和5年度より5,193人増加し、新型コロナウイルス感染拡大影響前の利用者数の約87%まで戻りました。今後、児童館の今日的役割、機能について市担当課と検討を進め、児童館の更なる充実に努めます。

学童保育所の運営については、5つの学童保育所の利用者数が158,789人を数え、令和5年度より5,366人増加し、特に第四学区学童保育所で定員を上回る登録児童の受入れ状況から、市担当課と協議を行い、旧鶴岡市立南部保育園を借用してのクラブ室を確保（分館開設）し利用児童が安心・安全な時間を過ごせるよう環境整備に努めました。

Ⅱ 法人運営

【令和6年度役員】

| | 職名 | 氏名 |
|------------|------------------|--|
| R6. 4. 1 | 会長 | 山木知也 |
| | 副会長 | 阿部真一、阿部和廣、阿部恵子 |
| | 常務理事 (事務局長兼務) | 佐藤豊継 |
| | 理事 | 畑山孝一 (R6. 4. 21 まで)、阿部仁 (R6. 5. 30 まで)、 佐藤繁義 (R7. 3. 31 まで)、渋谷俊美、原田みゆき、 伊藤秀紀、武田憲夫、阿部英子、平藤久喜、伊藤彦市、 澤邊みさ子 |
| | 監事 | 相澤康夫、佐藤満也、原田洋 |
| | 評議員 | 五十嵐満 (R6. 4. 22 まで)、佐々木榮三 (R6. 5. 31 まで)、 高山与一 (R7. 3. 31 まで)、五十嵐収一 (R7. 3. 31 まで)、 齋藤芳 (R7. 3. 31 まで)、白井覚 (R7. 3. 31 まで)、 鈴木淳士、櫻井修治、土岐純一、難波和博、五十嵐俊道、 榎本光男、五十嵐誠一、大瀧博勝、本間健一、大川厚子、 佐藤こず恵、石川一郎、佐藤保政、中嶋悦、佐藤満子、 吉宮茂、日向常浩、村井勢一、千田洋子、橋本廣美、 五十嵐武、加藤由喜子、平藤博巳、菅原しづ子、 五十嵐庄一 |
| R6. 6. 11 | 評議員 | 三浦光太郎 (R7. 3. 31 まで)、齋藤良弘 (R7. 3. 31 まで)、 門崎由紀 (R7. 3. 31 まで)、佐藤幸 (R7. 3. 31 まで)、 高橋治郎 |
| R6. 6. 25 | 理事 | 佐々木榮三、鈴木庸介 |
| R6. 12. 23 | 評議員 | 石向隆 |

1. 理事会・評議員会開催報告

第1回理事会 令和6年6月7日（金）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 放課後児童健全育成事業所第一学区学童保育所運営規程の一部改正について
- 報告3 放課後児童健全育成事業所第四学区学童保育所運営規程の一部改正について

【議事】

- 議第1号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について
- 議第2号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について
- 議第3号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 議第4号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 議第5号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 議第6号 令和5年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について
- 議第7号 令和5年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算の承認について
- 議第8号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第9号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第10号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和6年度第1回評議員会の開催について
- 議第11号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について
- 議第12号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和6年度第1回評議員選任委員会の開催について
- 議第13号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員の選任について
- 議第14号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について

第2回理事会 令和6年9月25日（水）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について

【議事】

- 議第 1 5 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について
- 議第 1 6 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 議第 1 7 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会安全衛生管理規程の一部改正について
- 議第 1 8 号 くしびき東部保育園運営規程の廃止について
- 議第 1 9 号 くしびき南部保育園運営規程の廃止について
- 議第 2 0 号 継続による指定管理者の指定申請について

第 3 回理事会 令和 6 年 1 2 月 1 2 日（木）

【報告】

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告 3 継続による指定管理者の内定について

【議事】

- 議第 2 1 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 議第 2 2 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 議第 2 3 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 議第 2 4 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について
- 議第 2 5 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和 6 年度第 2 回評議員選任委員会の開催について

第 4 回理事会 令和 7 年 3 月 1 4 日（金）

【報告】

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について

【議事】

- 議第 2 6 号 指定居宅介護支援事業所居宅介護支援センター愛寿園運営規程の廃止について
- 議第 2 7 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正について
- 議第 2 8 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について

- 議第 29 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
議第 30 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
議第 31 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会安全衛生管理規程の一部改正について
議第 32 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について
議第 33 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について
議第 34 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員等旅費規程の一部改正について
議第 35 号 通所系事業所の給食費の改定について
議第 36 号 グループホームはちもりの光熱水費の改定について
議第 37 号 くしびき西部保育園運営規程の一部改正について
議第 38 号 継続による指定管理者の指定申請について
議第 39 号 令和 6 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
議第 40 号 令和 7 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について
議第 41 号 令和 7 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について
議第 42 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和 6 年度第 2 回評議員会の開催について
議第 43 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款の一部改正について
議第 44 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
議第 45 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
議第 46 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について

第 5 回理事会 令和 7 年 3 月 2 5 日（火）（決議の省略）

【議事】

- 議第 47 号 鶴岡市高齢者福祉センターおおやま施設長の選任について
議第 48 号 鶴岡市社会福祉協議会参事の選任について

第 1 回評議員会 令和 6 年 6 月 2 5 日（火）

【報告】

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について
報告 3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について

- 報告 4 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 5 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 6 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 7 放課後児童健全育成事業所第一学区学童保育所運営規程の一部改正について
- 報告 8 放課後児童健全育成事業所第四学区学童保育所運営規程の一部改正について
- 報告 9 令和 5 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算について

【議事】

- 議第 1 号 令和 5 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について
- 議第 2 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第 3 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第 4 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について

第 2 回評議員会 令和 7 年 3 月 2 5 日（火）

【報告】

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告 3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について
(令和 6 年 1 0 月 1 日施行、令和 7 年 4 月 1 日施行)
- 報告 4 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
(令和 6 年 1 0 月 1 日施行、令和 6 年 1 2 月 1 2 日施行、令和 7 年 4 月 1 日施行)
- 報告 5 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
(令和 6 年 1 2 月 1 2 日施行、令和 7 年 4 月 1 日施行)
- 報告 6 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
(令和 6 年 1 2 月 1 2 日施行、令和 7 年 4 月 1 日施行)
- 報告 7 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について

- 報告 8 指定居宅介護支援事業所居宅介護支援センター愛寿園運営規程の廃止について
- 報告 9 通所系事業所の給食費の改定について
- 報告 10 グループホームはちもりの光熱水費の改定について
- 報告 11 継続による指定管理者の内定について
- 報告 12 くしびき東部保育園運営規程の廃止について
- 報告 13 くしびき南部保育園運営規程の廃止について
- 報告 14 くしびき西部保育園運営規程の一部改正について
- 報告 15 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正について
- 報告 16 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について
- 報告 17 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
- 報告 18 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
- 報告 19 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会安全衛生管理規程の一部改正について
(令和 6 年 9 月 25 日施行、令和 7 年 4 月 1 日施行)
- 報告 20 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員等旅費規程の一部改正について

【議事】

- 議第 5 号 令和 6 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第 6 号 令和 7 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について
- 議第 7 号 令和 7 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について
- 議第 8 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款の一部改正について

2. 要綱等の制定及び一部改正

- 令和 6 年 4 月 1 日 身体拘束適正化に関する指針の一部改正
- 6 月 7 日 職員紹介制度実施要綱の制定
処遇改善手当支給基準の制定
- 7 月 8 日 契約職員の就業及び給与等に関する規程施行要綱の一部改正
- 9 月 2 日 契約職員の就業及び給与等に関する規程施行要綱の一部改正
- 11 月 21 日 契約職員の就業及び給与等に関する規程施行要綱の一部改正
- 令和 7 年 3 月 1 日 虐待防止に関する指針の一部改正
身体拘束適正化に関する指針の一部改正
感染症対策に関する指針の一部改正
- 3 月 25 日 私有車の業務使用に関する要綱の一部改正

3. 監査実施報告

第1回監査 令和6年5月28日(火)

【内容】 令和5年度事業報告及び決算等に係る監査

第2回監査 令和6年9月6日(金)

【内容】 施設(櫛引福祉センター/櫛引すこやかセンター)訪問による監査(令和6年4月~令和6年6月期)

第3回監査 令和6年11月22日(金)

【内容】 令和6年度半期(令和6年4月~令和6年9月期)監査

4. 会計監査人による監査実施報告

期末監査 令和6年5月13日(月)~5月15日(水)

令和6年5月20日(月)~5月22日(水)

【内容】 令和5年度計算書類及び財産目録の監査

第1回期中監査 令和6年11月25日(月)~11月29日(金)

【内容】 監査(令和6年4月~令和6年9月期)、施設訪問(くしびき東部保育園/くしびき南部保育園)

第2回期中監査 令和7年3月24日(月)~3月28日(金)

【内容】 監査(令和6年10月~令和7年1月期)、施設訪問(地域福祉課(ボランティアセンター含む)/ふれあい/訪問介護事業所/地域包括支援センターかたりあい)

5. 事業推進報告

- 令和6年4月 1日 辞令交付式(本部事務局)
- 12日 第1回福祉センター会議(第三学区コミュニティセンター)
- 18日 事業経営会議(本部事務局)
- 22日 社協広報紙「おだがいさま」発行に係る印刷製本業務委託入札会(本部事務局)
- 指名業者: 4社
- 落札者: 鶴岡印刷株
- 落札金額: 894,000円(税込983,400円)
- 24日 鶴岡市戦没者追悼式(荘内神社参集殿/90名)
- 25日 車両リースに係る入札会(送迎、訪問用軽自動車)(郵送入札)
- 指名業者: 7社
- 落札者: 住友三井オートサービス株南東北支店

落札金額：11,184,000円（5年リース）

（税込11,647,800円、非課税車両3台含む）

※地域福祉課、たかだて、はちもり、訪問介護事業所本部、訪問介護事業所とようらサテライト、訪問介護事業所おおやまサテライト、地域包括支援センターなえづ 7台分

第1回事業経営計画全体会議（本部事務局）

30日 第1回日常生活自立支援事業 生活支援員会議（本部事務局）

5月 7日 複合機の新規リース及び保守契約に係る入札会（本部事務局）

指名業者：4社

落札者：ツルカンシステム㈱

落札金額：1,332,000円（5年リース）

（税込1,465,200円）

※鶴岡ふれあいプラザかたりあい 1台分

9日 学区・地区社会福祉協議会連絡委員会（本部事務局）

13日 会計監査人による期末監査①（～15日まで・本部事務局）

15日 第2回福祉センター会議（保健福祉センター）

20日 地域福祉課、鶴岡市ボランティアセンターが鶴岡市総合保健福祉センター（にこ♥ふる）から鶴岡ふれあいプラザかたりあいに移転

会計監査人による期末監査②（～22日まで・本部事務局）

27日 高齢者福祉センターおおやま ほのぼの3丁目空調設備工事に係る契約締結

契約金額：9,900,000円

（うち消費税額900,000円）

工期：令和6年5月28日～6月19日

契約の相手方：鶴岡市伊勢横内字畑福16番地

荘和設備工業㈱

28日 令和5年度事業報告及び決算等に係る監事監査（本部事務局）

29日 三役会議（本部事務局）

6月 7日 第1回理事会（本部事務局）

10日 令和7年度職員採用試験募集開始（～7月10日まで）

11日 第1回評議員選任委員会（本部事務局）

12日 鶴岡西部児童館運営委員会（鶴岡西部児童館）

14日 暘光児童館運営委員会（暘光児童館）

18日 中央児童館運営委員会（中央児童館）

児童福祉施設に対する指導監査（鶴岡南部児童館）

20日 児童福祉施設に対する指導監査（暘光児童館）

児童福祉施設に対する指導監査（中央児童館）

- 令和6年能登半島地震による災害支援
- ※山形県社会福祉協議会による応援要請に基づくもの
- ・石川県志賀町社会福祉協議会への支援
災害ボランティアセンターへの職員派遣 6/20～6/26
派遣実人数1名 派遣延人数7名
- 25日 第1回評議員会（本部事務局）
- 27日 大山児童館運営委員会（大山児童館）
児童福祉施設に対する指導監査（鶴岡西部児童館）
児童福祉施設に対する指導監査（大山児童館）
- 7月 9日 鶴岡南部児童館運営委員会（鶴岡南部児童館）
苦情処理経過報告会議（本部事務局）
- 10日 第1回法人後見運営委員会（保健福祉センター／16名）
- 19日 学区・地区社会福祉協議会情報交換会①（第五学区コミュニティ防災センター）
- 28日 職員採用一次試験（本部事務局／7名）
令和6年7月25日からの大雨災害にかかる鶴岡市災害ボランティアセンターの設置
- ・開設期間 令和6年7月28日（日）～令和6年8月9日（金）
 - ・設置場所 鶴岡ふれあいプラザかたりあい 藤島福祉センター
鶴岡市社協本部
 - ・ニーズ受付件数 8件（内閉所後2件）
 - ・ボランティア活動件数 11件（内閉所後2件）
- 29日 第四学区学童保育所分館での受け入れ開始
- 30日 令和6年7月25日からの大雨による災害支援（9/11現在）
- ※山形県社会福祉協議会による応援要請に基づくもの
- ・酒田市社会福祉協議会への支援
災害ボランティアセンターへの職員派遣
派遣日数18日 派遣実人数16名 派遣延人数34名
 - ・遊佐町社会福祉協議会への支援
災害ボランティアセンターへの職員派遣
派遣日数13日 派遣実人数16名 派遣延人数30名
 - ・戸沢村社会福祉協議会への支援
災害ボランティアセンターへの職員派遣
派遣日数10日 派遣実人数2名 派遣延人数10名
- 8月 8日 事業経営会議（本部事務局）
- 11日 令和6年7月25日からの大雨による災害支援
庄内町社会福祉協議会への支援
- ・ボランティア活動 活動人数10名

- 24日 職員採用二次試験（本部事務局／6名）
令和6年7月25日からの大雨による災害支援
酒田市社会福祉協議会への支援
・ボランティア活動 活動人数5名
- 29日 指定障害福祉サービス事業者等運営指導（もみじが丘）
- 30日 学区・地区社会福祉協議会情報交換会②（大山コミュニティセンター）
- 9月 1日 令和6年7月25日からの大雨による災害支援
戸沢村社会福祉協議会への支援
・ボランティア活動 活動人数9名
- 6日 監事監査（令和6年4月～6月期・櫛引福祉センター／櫛引すこやかセンター）
令和6年7月25日からの大雨による災害支援
戸沢村社会福祉協議会への支援
・ボランティア活動 活動人数10名
- 10日 藤島地域福祉委員会（藤島庁舎）
- 11日 三役会議（本部事務局）
- 13日 地域密着型サービス事業者等運営指導（居宅介護支援センター愛寿園）
- 17日 職場代表者会議（本部事務局）
- 20日 学区・地区社会福祉協議会情報交換会③（加茂コミュニティ防災センター）
- 24日 第1回社会福祉法人連携における公益的な取組に係る連絡会（本部事務局）
- 25日 第2回理事会、役員等研修会（本部事務局）
- 10月 3日 温海地域福祉委員会（温海庁舎）
- 4日 令和6年7月25日からの大雨による災害支援
酒田市社会福祉協議会への支援
・ボランティア活動 活動人数5名
戸沢村社会福祉協議会への支援
・ボランティア活動 活動人数4名
- 9日 令和6年7月25日からの大雨による災害支援
酒田市社会福祉協議会への支援
・ボランティア活動 活動人数8名
- 10日 児童福祉施設に対する指導監査（くしびき南部保育園、くしびき保育園）
- 11日 朝日地域福祉委員会（朝日庁舎）
学区・地区社会福祉協議会情報交換会④（湯田川コミュニティセ

- ンター)
- 1 5 日 表彰審査委員会 (かたりあい)
 - 1 6 日 令和6年7月25日からの大雨による災害支援
酒田市社会福祉協議会への支援
・ボランティア活動 活動人数8名
 - 1 7 日 児童福祉施設に対する指導監査 (くしびき東部保育園)
 - 1 9 日 職員内部登用一次試験 (本部事務局/3名)
 - 2 9 日 令和6年7月25日からの大雨による災害支援
社会福祉法人連携における公益的な取組に係る連絡会による
酒田市社会福祉協議会への支援
・ボランティア活動 活動人数8名
 - 1 1 月 5 日 児童福祉施設に対する指導監査 (くしびき西部保育園)
 - 6 日 羽黒地域福祉委員会 (羽黒老人福祉センター)
 - 1 2 日 鶴岡市社協福祉のつどい (鶴岡まちなかキネマ/93名)
 - 1 4 日 職員内部登用二次試験 (本部事務局/3名)
 - 1 9 日 鶴岡市社協安全運転研修会 (本部事務局)
 - 2 2 日 令和6年度半期決算に係る監事監査 (本部事務局)
 - 2 5 日 会計監査人による期中監査 (~29日まで)
(本部事務局・くしびき東部保育園/くしびき南部保育園)
 - 2 8 日 地域密着型サービス事業者等運営指導 (デイサービスセンターたかだて)
櫛引地域福祉委員会 (櫛引老人福祉センター)
 - 1 2 月 3 日 学区・地区社会福祉協議会連絡委員会 災害ボランティア研修会
(本部事務局/32名)
 - 4 日 三役会議 (本部事務局)
無期労働契約説明会 (本部事務局/5名)
 - 5 日 無期労働契約説明会 (本部事務局/13名)
 - 6 日 第2回日常生活自立支援事業 生活支援員会議 (保健福祉センター)
 - 1 0 日 歳末たすけあい募金配分委員会 (本部事務局)
 - 1 2 日 第3回理事会 (本部事務局)
 - 1 8 日 火災保険更新に係る入札会 (本部事務局)
指名業者: 3社
落札者: ㈱スマイル 淀川保険サービス
落札金額: 2,749,400円 (保険期間5年)
(非課税2,749,400円)
- ※とようら、ふれあい、くしびき高齢者生活福祉センター 3施設分
車両リースに係る入札会 (送迎車両)
指名業者: 8社

落札者：芙蓉オートリース(株)東北支店
落札金額：2,592,000円（5年リース）
（税込2,851,200円）

※総務課 1台分

23日 第2回評議員選任委員会（本部事務局）

25日 くしびき保育園駐車場整備工事に係る入札会（本部事務局）

指名業者：3社

落札者：(株)佐藤組

落札金額：7,900,000円

（税込8,690,000円）

1月16日 指定障害福祉サービス事業者等運営指導（訪問介護事業所）

2月6日 指定障害福祉サービス事業者等運営指導（鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま就労継続支援B型事業所、生活介護事業所）

学区・地区社会福祉協議会連絡委員会幹事会（本部事務局）

14日 介護保険施設等運営指導（デイサービスセンターおおやま、短期入所センターおおやま、特別養護老人ホームおおやま）

18日 指定障害福祉サービス事業者等運営指導（なえづ生活介護事業所）

第2回法人後見運営委員会（保健福祉センター／13名）

20日 第3回評議員選任委員会（本部事務局）

25日 第2回社会福祉法人連携における公益的な取組に係る連絡会（本部事務局）

3月4日 学区・地区社会福祉協議会連絡委員会（本部事務局）

5日 三役会議（本部事務局）

6日 第2回事業経営計画全体会議（本部事務局）

12日 職場代表者会議（本部事務局）

14日 第4回理事会（本部事務局）

19日 鶴岡市社会福祉協議会本部事務局清掃業務委託に係る入札会

指名業者：3社

落札者：(株)庄交コーポレーション 庄交クリーン

落札金額：1,175,000円

（税込1,292,500円）

24日 会計監査人による期中監査（～28日まで）

（本部事務局・地域福祉課（ボランティアセンター含む）／ふれあい
／訪問介護事業所／地域包括支援センターかたりあい）

25日 第2回評議員会（本部事務局）

第5回理事会（決議の省略）

28日 高齢者福祉センターおおやま防火対象物点検業務及び消防設備等点検業務入札会（高齢者福祉センターおおやま）

指名業者：3社
落札者：山形ニッタン(株)庄内支社
落札金額：974,000円
(税込1,071,400円)

高齢者福祉センターおおやま一般廃棄物及び産業廃棄物収集運搬
業務入札会(高齢者福祉センターおおやま)

指名業社：3社
落札者：(有)大滝商店
落札金額：2,415,000円
(税込2,656,500円)

31日 退職辞令交付式(本部事務局)

(令和7年度)

4月 1日 辞令交付式(本部事務局)
22日 社協広報紙「おだがいさま」発行に係る印刷製本業務委託入札会
(本部事務局)

指名業者：4社
落札者：朝日印刷(株)
落札金額：1,008,000円(税込1,108,800円)
車両リースに係る入札会(送迎、訪問車両)

指名業者：7社
落札者：(株)イチネン東北北海道営業本部 東北支店
落札金額：8,265,600円(5年リース)
(税込8,510,160円、非課税車両3台含む)
※なえづ、ふれあい、訪問介護事業所本部、訪問介護事業所くし
びきサテライト 5台分

学区・地区社会福祉協議会連絡委員会幹事会(本部事務局)

24日 鶴岡市戦没者追悼式(庄内神社参集殿/87名)

5月 1日 第1回日常生活自立支援事業 生活支援員会議(保健福祉センタ
ー)

13日 学区・地区社会福祉協議会連絡委員会(本部事務局)

14日 くしびき西部保育園遊戯室空調設備設置工事に係る入札会
(本部事務局)

指名業者：5社
落札者：大同電気(株)
落札金額：2,475,000円
(税込2,722,500円)

15日 会計監査人による期末監査①(～17日まで・本部事務局)

- 19日 会計監査人による期末監査②（～21日まで・本部事務局）
- 27日 令和6年度事業報告及び決算等に係る監事監査（本部事務局）
- 28日 三役会議（本部事務局）

6. 広報「おだがいさま」発行状況

- 第111号 4月1日発行
- 第112号 6月1日発行
- 第113号 8月1日発行
- 第114号 10月1日発行
- 第115号 12月1日発行
- 第116号 2月1日発行

Ⅲ 組織運営

(1) 社会福祉法人としての適正な運営

社会福祉法に基づいた理事会・評議員会・監事監査などの組織統治体制の確立に継続して取り組むとともに、コンプライアンス（法令等遵守）を徹底し、公正かつ適正な法人運営を進めました。

監事及び会計監査人の指摘事項や指導内容については、原因分析と対応を迅速かつ適切に行うことで、健全な法人運営の推進を図りました。

(2) 健全経営と経営基盤の強化

ここ数年実質的な赤字決算が続くなど、非常に厳しい経営状況が続いていることから、経営基盤の安定と強化を図り持続可能な事業展開を進めるため、経営基盤の強化に向けたプロジェクトチーム（事務局長、事務局次長、総務課、職員厚生課、事業推進課から選出された職員）を設置し、各事業の業務・財務分析による事業評価を基に経営改善を進めました。

(3) 労務管理体制の強化と職員処遇改善への取組

勤怠管理システムについては、予定していた事業所すべての給与システムとの連動を開始し、事務効率化を進めました。

職員の処遇改善への取組については、正規職員の給与見直しを実施するとともに、契約職員については毎年の最低賃金の改定に左右されない給与体系を整備し、人材が定着する取組を進めました。

また、令和6年度からストレスチェックの項目を増やし、そのデータを基に外部研修を行うなど、職場環境の改善を図りました。

(4) 人材確保と人材育成の推進

人材確保については、従来の採用方法に加えて法人職員のネットワークを活用した職員紹介手当の導入、求職者が興味を引くような求人票づくり、公的雇用機関が主催する求人説明会へ積極的に参加するなど、効果的な求人活動に努めました。

職員採用については、法人の経営戦略を見据えた採用計画に基づき、一般採用試験と内部登用試験を実施し令和7年4月に11人を採用しました。

人材育成では、階層別研修（ウェブ研修と集合研修）を令和5年度に引き続き実施し、それぞれの職位において必要となる知識やスキルの習得に向けた取組を進めました。また、個人目標の取組や接遇研修を実施し、理想とする社協職員の育成に努めました。

(5) 「発展・強化計画（第3期）」の推進

第3期計画の実施スケジュールに基づいた取組を積極的に進めるとともに、PDCAサイクル³を意識して計画の進行管理を行いました。

<会員・会費の状況>

| 地域 | 会員区分 | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
|----|----------|-----|------------|------------|------------|------------|------------|
| 鶴岡 | 一般会員（世帯） | | 27,883 | 27,850 | 26,862 | 27,177 | 27,439 |
| | 賛助会員 | 個人 | 851 | 843 | 805 | 817 | 797 |
| | | 事業所 | 404 | 394 | 387 | 385 | 372 |
| | 会費額 | | 15,913,800 | 15,731,140 | 15,504,175 | 15,500,845 | 15,519,190 |
| 藤島 | 一般会員（世帯） | | 2,597 | 2,613 | 2,584 | 2,573 | 2,536 |
| | 賛助会員 | 個人 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 |
| | | 事業所 | 22 | 23 | 22 | 22 | 22 |
| | 会費額 | | 1,382,000 | 1,392,000 | 1,376,000 | 1,372,400 | 1,344,940 |
| 羽黒 | 一般会員（世帯） | | 2,021 | 2,025 | 2,070 | 2,023 | 1,998 |
| | 賛助会員 | 個人 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 |
| | | 事業所 | 22 | 23 | 22 | 21 | 21 |
| | 会費額 | | 1,079,500 | 1,086,500 | 1,107,000 | 1,083,000 | 1,071,200 |
| 櫛引 | 一般会員（世帯） | | 1,815 | 1,819 | 1,816 | 1,792 | 1,750 |
| | 賛助会員 | 個人 | 132 | 132 | 120 | 108 | 107 |
| | 会費額 | | 1,039,500 | 1,043,500 | 1,029,000 | 1,004,000 | 982,000 |
| 朝日 | 一般会員（世帯） | | 1,083 | 1,081 | 1,063 | 1,051 | 1,015 |
| | 賛助会員 | 個人 | 4 | 3 | 3 | 7 | 6 |
| | | 事業所 | 22 | 23 | 21 | 22 | 27 |
| | 会費額 | | 632,600 | 636,500 | 620,500 | 613,500 | 610,500 |
| 温海 | 一般会員（世帯） | | 2,374 | 2,343 | 2,289 | 2,236 | 2,201 |
| | 賛助会員 | 個人 | 37 | 40 | 35 | 20 | 18 |
| | | 事業所 | 58 | 57 | 56 | 53 | 52 |
| | 会費額 | | 1,449,000 | 1,411,500 | 1,382,500 | 1,329,000 | 1,301,500 |
| 合計 | 一般会員（世帯） | | 37,773 | 37,731 | 36,684 | 36,852 | 36,939 |
| | 賛助会員 | 個人 | 1,030 | 1,024 | 968 | 957 | 932 |
| | | 事業所 | 528 | 520 | 508 | 503 | 494 |
| | 会費額 | | 21,496,400 | 21,301,140 | 21,019,175 | 20,902,745 | 20,829,330 |

³ PDCAサイクル：「Plan（計画）」「Do（実行）」「Check（評価）」「Action（改善）」の頭文字からとった言葉で、業務の効率化を目指す方法の一つ。計画から改善までを一つのサイクルとして行う。

<職員の状況>

(単位：人)

| 年 月 | 職員数 | 内 訳 | | | | |
|-------|-----|-----|----|------------|-------------|-----|
| | | 正規 | 嘱託 | 契約 (常勤) | 契約 (パート) | 市派遣 |
| R2.4 | 825 | 313 | 18 | 195 | 298 | 1 |
| R3.4 | 821 | 311 | 23 | 186 | 300 | 1 |
| R4.4 | 800 | 298 | 21 | 195 | 286 | 0 |
| R5.4 | 756 | 287 | 22 | 181 | 266 | 0 |
| R6.4 | 739 | 277 | 20 | 179 | 263 | 0 |
| R6.5 | 735 | 276 | 20 | 180 | 259 | 0 |
| R6.6 | 736 | 277 | 20 | 181 | 258 | 0 |
| R6.7 | 736 | 275 | 21 | 181 | 259 | 0 |
| R6.8 | 743 | 274 | 21 | 180 | 268 | 0 |
| R6.9 | 740 | 274 | 21 | 181 | 264 | 0 |
| R6.10 | 740 | 274 | 21 | 181 | 264 | 0 |
| R6.11 | 740 | 274 | 21 | 179 | 266 | 0 |
| R6.12 | 741 | 274 | 21 | 177 | 269 | 0 |
| R7.1 | 738 | 274 | 21 | 177 | 266 | 0 |
| R7.2 | 742 | 273 | 21 | 177 | 271 | 0 |
| R7.3 | 744 | 273 | 21 | 177 | 273 | 0 |

<職員の給与の状況（正規職員のみ）>

(令和7年3月31日現在)

| 項目 職位 | 平均年齢 | 平均 俸給月額 | 平均 勤続年数 | 人数 | 性別内訳 | |
|----------|-------|------------|------------|------|------|------|
| | | | | | 男 | 女 |
| 局長・次長・参事 | 59.5歳 | 332,950円 | 24.0年 | 2人 | 1人 | 1人 |
| 課長 | 54.7歳 | 303,000円 | 27.0年 | 3人 | 1人 | 2人 |
| 所長級 | 55.5歳 | 294,835円 | 25.0年 | 17人 | 8人 | 9人 |
| 主査 | 54.0歳 | 267,425円 | 23.6年 | 8人 | 2人 | 6人 |
| 係長 | 49.0歳 | 250,076円 | 22.0年 | 25人 | 9人 | 16人 |
| 主任 | 46.5歳 | 229,249円 | 18.3年 | 45人 | 16人 | 29人 |
| 副主任 | 45.4歳 | 220,831円 | 14.3年 | 48人 | 13人 | 35人 |
| 主事 | 39.2歳 | 204,880円 | 8.3年 | 125人 | 26人 | 99人 |
| 全 体 | 44.1歳 | 225,226円 | 14.1年 | 273人 | 76人 | 197人 |

<職員の資格取得状況> (令和7年3月31日現在)

| 資 格 | 人数 |
|----------------------|------|
| 社会福祉士 | 55人 |
| 精神保健福祉士 | 9人 |
| 保健師、看護師（正看・准看） | 64人 |
| 理学療法士、作業療法士 | 6人 |
| 介護支援専門員 | 94人 |
| 介護福祉士 | 262人 |
| 社会福祉主事 | 109人 |
| 介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級含む） | 269人 |
| 保育士 | 91人 |
| 管理栄養士 | 4人 |

※重複あり

<職員採用の状況>

正規職員採用試験（内部登用含む）

| | | R6年度 | R5年度 | R4年度 | R3年度 | R2年度 |
|------|----------|------|------|------|------|------|
| 応募者数 | | 15人 | 15人 | 16人 | 20人 | 25人 |
| 採用者数 | | 8人 | 7人 | 11人 | 16人 | 16人 |
| 資 格 | 社会福祉士 | 5人 | 0人 | 3人 | 2人 | 1人 |
| | 介護福祉士 | 1人 | 4人 | 4人 | 2人 | 4人 |
| | 介護支援専門員 | 1人 | 0人 | 1人 | 2人 | 1人 |
| | 看護師（正・准） | 0人 | 1人 | 3人 | 1人 | 3人 |
| | その他 | 1人 | 2人 | 0人 | 9人 | 7人 |
| 退職者数 | | 23人 | 14人 | 12人 | 19人 | 16人 |

<保有車両の状況>

(令和7年3月31日現在)

| | バス | 普通自動車 | 軽自動車 | 福祉車両 | 計 |
|----------------------|----|-------|------|------|------|
| 事務局 | 2台 | 4台 | 8台 | 3台 | 17台 |
| 福祉センター | 1台 | 2台 | 2台 | 3台 | 8台 |
| 包括・支援センター | — | — | 23台 | — | 23台 |
| 通所（高齢・障がい） | — | 2台 | 3台 | 40台 | 45台 |
| 入居施設 （特養・グループホーム） | — | 1台 | — | 4台 | 5台 |
| 訪問介護 | — | — | 23台 | — | 23台 |
| 児童・保育 | 3台 | — | 2台 | — | 5台 |
| 合 計 | 6台 | 9台 | 61台 | 50台 | 126台 |

<災害援護金>

火災等の災害に見舞われた世帯に援護金を支給しました。

| | R4 年度 | | R5 年度 | | R6 年度 | |
|----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 鶴岡福祉センター | 6 件 | 110,000 円 | 8 件 | 160,000 円 | 22 件 | 250,000 円 |
| 藤島福祉センター | 0 件 | 0 円 | 0 件 | 0 円 | 0 件 | 0 円 |
| 羽黒福祉センター | 0 件 | 0 円 | 0 件 | 0 円 | 0 件 | 0 円 |
| 櫛引福祉センター | 0 件 | 0 円 | 1 件 | 10,000 円 | 0 件 | 0 円 |
| 朝日福祉センター | 0 件 | 0 円 | 0 件 | 0 円 | 0 件 | 0 円 |
| 温海福祉センター | 0 件 | 0 円 | 0 件 | 0 円 | 0 件 | 0 円 |
| 合計 | 6 件 | 110,000 円 | 9 件 | 170,000 円 | 22 件 | 250,000 円 |

<旅費等一時援護金>

旅費等に困窮し、目的地まで到達できない方に隣接市町村までの旅費等を支給しました。

(支給金額：隣接市町村までの旅費等)

| | R4 年度 | | R5 年度 | | R6 年度 | |
|----------|-------|---------|-------|----------|-------|---------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 鶴岡福祉センター | 4 件 | 5,360 円 | 11 件 | 11,240 円 | 2 件 | 2,980 円 |
| 温海福祉センター | 0 件 | 0 円 | 0 件 | 0 円 | 0 件 | 0 円 |
| 合計 | 4 件 | 5,360 円 | 11 件 | 11,240 円 | 2 件 | 2,980 円 |

IV 事業運営

1. 地域福祉事業

(1) 総括

第3次地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」（令和3年度～令和7年度）の4年目として、計画に基づき地域福祉実践に努めました。また、学区・地区社会福祉協議会等や各福祉センターにおいては、それぞれの小地域福祉活動計画「地域支え合いプラン」（令和3年度～令和7年度）に基づき、地域特性に応じた住民主体の地域福祉活動を推進しました。

令和6年度より、鶴岡福祉センターに配置する統括福祉センター長が6地域の福祉センターの業務管理を行うこととし、福祉センターミーティングや事例検討会を実施するなど、各地域の福祉活動等を各福祉センター間で共有し、相談支援及び各種事業に取り組みました。

令和6年7月25日からの大雨災害により、鶴岡市においても床上浸水・床下浸水の建物被害が広範囲に発生したことから、ニーズ調査を経て、行政各関係部署と情報共有、話し合いをしながら、7月28日に鶴岡市災害ボランティアセンターを開設し、被災者の生活再建に向けたボランティア活動の拠点を設け、NPO法人や企業・団体のご協力をいただきながら災害支援を図りました。

コミュニティソーシャルワークの実践として、地域福祉課及び福祉センターの地区担当職員を地域福祉ワーカーとして位置づけ、日常生活に課題を抱え、制度の狭間にある事例に訪問や同行支援など丁寧な課題解決に取り組み、民生委員・児童委員や自治組織、各相談支援機関の協力をいただきながら相談対応を図りました。

令和4年度から鶴岡市より受託している重層的支援体制整備事業移行準備事業については最終の3年目となり、令和6年度は対象エリアを鶴岡市全域に拡大し、更に、これまでの多機関協働事業のほか、参加支援事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業を実施し、各種事業の一体的な支援により、各相談支援機関や地域福祉ワーカーが関わる、複雑化・複合化した課題を抱える世帯の対応を図りました。

(2) 重点事業

① 地域福祉活動計画及び地域支え合いプランの推進

「おだがいさまのまちづくり計画2020」に沿った事業推進のため、地域福祉部門（地域福祉課、生活支援課、各福祉センター、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、地域生活自立支援センター）において、令和6年度も継続して単年度ごとの評価管理シートによる進行管理を行いました。

地域支え合いプランについては、鶴岡地域においては、学区・地区社会福祉協議会等の地域福祉推進基礎組織が、進行管理・評価シートによりプランの検証及び取組の検討を行いな

がら事業を推進しました。地域庁舎エリア（藤島、羽黒、櫛引、朝日、温海）の福祉センターにおいては、地域福祉委員会により地域支え合いプランに基づいた事業の検証及び協議を行い、住民主体の取組を推進しました。

② コミュニティソーシャルワークの実践

福祉センターごとに地域福祉ワーカーを配置し、民生委員・児童委員及び自治組織、相談支援機関等からの情報提供、情報収集を図るため、単位民協定例会及び自治組織、学区・地区社協が実施する事業等へ出席し、制度の狭間にある課題を抱える方、相談に行く力がなく地域で孤立している方などの把握に努め、訪問や同行支援、社会参加の事業、機会へつなぐなど、関係機関、地域組織との連携、協働により相談支援を図りました。

③ 重層的支援体制整備事業移行準備事業(3年目)の実施

鶴岡市における地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の整備のため、相談支援・参加支援・地域づくりに向けた支援を一体的に実施する重層的支援体制整備事業への移行準備事業を、令和5年度に引き続き鶴岡市より受託し、3年間の移行準備事業の最終年度となる令和6年度は、重層的支援体制の機能である多機関協働事業、参加支援事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業の三事業を実施しました。さらに、対象エリアを地域包括支援センター7エリア(鶴岡地域、櫛引地域)から11エリアの市全域に拡大し、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、生活自立支援センター、子ども家庭支援センターと連携し、重層的支援会議の開催及びアウトリーチによる対応やケースの把握、参加支援事業へのつなぎによる一体的な自立支援を図りました。

④ 災害対応の体制整備

令和6年7月25日からの大雨災害のため、鶴岡市災害ボランティアセンターを7月28日から8月9日まで開設し、拠点をボランティアセンターの事務所がある鶴岡ふれあいプラザかたりあい及び被害が多く発生した地域の藤島福祉センターへ設置しました。支援ニーズの状況から、広くボランティアの募集は行わず、発災直後より協力の連絡をいただいた鶴岡地域のNPO法人や企業、団体等とボランティア活動の調整を行う形で運営し、被災者の生活再建を図りました。災害ボランティアセンター閉所後の活動も含め、11件の活動、延べ65名の方々より災害ボランティア活動へご協力いただきました。また、大雨災害により設置された他市町村社協への災害ボランティアセンターへの職員派遣やボランティア活動を行い災害に対する支援を図りました。大規模災害の発生に準備・対応するため、災害ボランティアセンター設置・運営のスタッフを担う関係者と地域組織を対象に、鶴岡市総合防災訓練において災害ボランティアセンター設置・運営訓練を行い、更に、災害ボランティアセンター研修会を開催し、災害へ対応する平時からの取組について啓発を図りました。

⑤ 社会福祉法人の公益的な取組の実施

特別養護老人ホームを経営する 9 つの社会福祉法人による「社会福祉法人連携による公益的な取組連絡会」を開催し、継続して、ひきこもりがちの方、コミュニケーションに不安のある方などへの社会参加に向けた作業の場などの提供メニューの整理、連絡会参加法人合同によるフードドライブを実施し、地域福祉ワーカーや相談支援機関の生活困窮世帯への自立支援に活用しました。また、7月25日からの大雨災害への酒田市での災害ボランティア活動についても参加法人よりご協力いただきました。

◇ 各福祉センターの地域福祉事業総括

・鶴岡福祉センター

学区・地区社協等が策定する、小地域ごとの福祉活動に関する計画「地域支え合いプラン」の進行管理・評価について、学区地区4エリアに分け、学区・地区社会福祉協議会等の地域福祉推進基礎組織と、地域支え合いプランの取組に関する「見守り」、「支え合い」、「福祉教育」の情報交換会を実施し、相互に事業推進の確認を行いました。また、災害ボランティア研修を実施し、災害時を想定した訓練など各学区・地区における平時からの取組について研修しました。地域ケア推進担当として、学区・地区社会福祉協議会等の事業、ネットワーク会議等へ積極的に参加するなど、地域の生活課題に対応する住民主体活動に対し支援を図りました。

・藤島福祉センター

第2次「藤島地域支え合いプラン」⁴の3つの重点目標に基づき各種事業を実施しました。福祉教育では外部講師を依頼して小学校2校で「経済と福祉」についての学習を実施したほか、新たに中学校3年生を対象にして、地域内の企業や住民など13名よりご協力いただき「藤島の未来を考える」というワークショップを実施しました。相談支援では多機関との連携を心掛け、民生委員・児童委員、市民福祉課、地域包括支援センターふじしま、障害者相談支援センターのほか弁護士や病院相談員、学校などとのチームアプローチを行い、参加型支援ではNPO法人よりご協力いただき実践しました。また、藤島地区保護司会との情報交換会に参加し相談業務の周知活動を行いました。

<地域福祉委員会開催状況>

| | 内 容 |
|-----|---|
| 第1回 | ・令和6年度藤島福祉センターの事業概要について ・第2次藤島地域支え合いプランの進捗状況について |

⁴ 「藤島地域支え合いプラン」：P.210

・羽黒福祉センター

第2次「羽黒おもいやりプラン」⁵の3つの活動目標に基づき各種事業を実施しました。ミニサマーチャレンジを自治振興会よりご協力いただき実施し、小学生を対象に福祉について考える学習を行いました。自殺予防対策として取り組んでいる、こころの健康づくり講演会は、令和6年度は羽黒コミュニティセンターを会場に開催し、また、住民組織の代表や羽黒庁舎等と連携し「羽黒地域こころの健康づくり応援団」による出前講座を3か所で実施しました。相談支援については、民生委員・児童委員、市民福祉課、地域包括支援センターはぐる、相談支援機関と連携し対応を図りました。

<地域福祉委員会開催状況>

| | 内 容 |
|-----|---|
| 第1回 | ・ 令和6年度羽黒福祉センターの事業概要について ・ 第2次羽黒地域支え合いプランの具体的な取組について |

・櫛引福祉センター

第2次「くしびき ささえ愛プラン」⁶の活動目標に基づき各種事業を実施しました。住民が気軽に集まり相談できる場として、櫛引地区関係事業所の福祉専門職が定期的に参加する認知症カフェ「きてみっ茶屋」を4回実施しました。小・中学校を対象にしたサマーチャレンジでは、非常時持出袋の中身を考えたほか、非常時の簡単な調理などの防災体験、認知症カフェ参加者との交流、青色駐車場整備を行いました。また、福祉教育では疑似体験を通して共生社会の重要性や多様性を認め合う社会について理解を深め、地域福祉の意識醸成に努めました。相談支援では、令和3年度から実施しているひきこもり相談会を継続し関係機関との連携強化を図りました。

<地域福祉委員会開催状況>

| | 内 容 |
|-----|---|
| 第1回 | ・ 令和6年度櫛引福祉センター事業概要について ・ 地域支え合いプランの推進に向けた取組について |

・朝日福祉センター

第2次「朝日地域支え合いプラン」⁷の活動目標に基づき、自治振興会や自治会、民生児童委員協議会、消防署朝日分署、鶴岡市ケーブルテレビジョン等からの協力を得ながら朝日地域の全世帯に家族安心カードの情報更新を呼び掛けました。また、朝日地域公共交通研究会における協議を踏まえ、大鳥地区村づくり推進協議会の互助輸送の立ち上げ支援や利用者を掘り起こすための情報交換会を行い、新たな地域支え合い事業の創出・拡充を図りました。

⁵ 「羽黒おもいやりプラン」：P. 211

⁶ 「くしびき ささえ愛プラン」：P. 212

⁷ 「朝日地域支え合いプラン」：P. 213

た。相談支援においては、朝日地域を担当する相談支援機関等のネットワーク会議を定期開催し支援困難世帯の情報共有とチームアプローチの検討を行いました。会議をスタートしてから4年が経ち、複合化した課題が解きほぐされ前進したケースが蓄積されてきました。

<地域福祉委員会開催状況>

| | 内 容 |
|-----|--|
| 第1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度朝日地域支え合いプランの進捗状況について ・地域課題の解決に向けた取り組みについて <li style="padding-left: 20px;">※大泉地域ビジョンと大鳥地区移動支援モデル事業の報告・協議 ・令和6年度朝日福祉センターの事業概要について |

・温海福祉センター

第2次「温海ささえあいプラン」⁸に基づき各種事業を実施し、バルーンアート交流会を通じて、中高生のボランティア活動及び住民との交流機会を図りました。相談支援では、温海庁舎市民福祉課、地域包括支援センターあつみとの連携を中心に、障害者相談支援センターや学校、病院相談員など他機関とも情報共有を図りながらチームアプローチを進め、ケースによっては市健康課が開催する若者ひきこもりケース支援会議において精神科医よりアドバイスをいただきながら支援を図りました。地域での見守りや支え合いについては、地区ごとに民生児童委員が実施する福祉懇談会で身近な事例を検討し、地域でできる関わり方や支援について意見交換を行いました。

<地域福祉委員会開催状況>

| | 内 容 |
|-----|---|
| 第1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度温海福祉センター事業概要について ・相談支援と参加支援について ・令和6年7月25日からの大雨災害への対応について |

(3) 地域福祉関連事業

① 福祉コミュニティづくり事業(鶴岡地域)

鶴岡地域の地域福祉推進拠点である学区・地区社協等に対し運営費を助成するとともに、学区・地区社協連絡委員会事務局として、「見守り」「支え合い」「福祉学習」をテーマとしたエリアごとの情報交換会や、災害ボランティアに関する研修会を開催し、各学区・地区社協等の活動の活性化を図りました。

⁸ 「温海ささえあいプラン」：P. 214

・助成金交付実績

(単位：円)

| No. | 学区・地区社協名 | 助成金額 | No. | 学区・地区社協名 | 助成金額 |
|-----|------------------|---------|-----------------|--------------|---------|
| 1 | 第一学区コミュニティ振興会 | 320,000 | 8 | 斎地区社会福祉協議会 | 260,000 |
| 2 | 第二学区コミュニティ振興会 | | 9 | 黄金地区社会福祉協議会 | |
| 3 | 第三学区社会福祉協議会 | | 10 | 湯田川地区社会福祉協議会 | |
| 4 | 第四学区コミュニティ振興会 | | 11 | 大泉地区社会福祉協議会 | |
| 5 | 第五学区社会福祉協議会 | | 12 | 京田地区社会福祉協議会 | |
| 6 | 第六学区コミュニティネットワーク | | 13 | 栄地区社会福祉協議会 | |
| 7 | 大山社会福祉協議会 | | 14 | 田川地区社会福祉協議会 | |
| | | 15 | 上郷地区社会福祉協議会 | | |
| | | 16 | 三瀬地区福祉のまちづくり協議会 | | |
| | | 17 | 由良社会福祉協議会 | | |
| | | 18 | 小堅地区社会福祉協議会 | | |
| | | 19 | 加茂地区社会福祉協議会 | | |
| | | 20 | 湯野浜地区社会福祉協議会 | | |
| | | 21 | 西郷地区社会福祉協議会 | | |

・鶴岡市学区・地区社会福祉協議会連絡委員会各種会議・研修会

| 会議・研修名 | 期 日 | 主な内容 | 参加者 |
|--------|--------|---|-----|
| 幹事会 | 4月16日 | ・連絡委員会への報告、提案事項について ・共同募金配分事業について | 6人 |
| 連絡委員会 | 5月9日 | ・令和5年度事業報告及び収支決算について ・令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)について ・共同募金配分事業について | 16人 |
| 情報交換会 | 7月19日 | ・生活の支え合い活動、見守りの仕組みづくり、福祉学習・世代間交流について(第1~第6学区) | 16人 |
| 情報交換会 | 8月30日 | ・生活の支え合い活動、見守りの仕組みづくり、福祉学習・世代間交流について (京田、栄、上郷、大山、西郷地区) | 13人 |
| 情報交換会 | 9月20日 | ・生活の支え合い活動、見守りの仕組みづくり、福祉学習・世代間交流について (三瀬、小堅、由良、加茂、湯野浜地区) | 13人 |
| 情報交換会 | 10月11日 | ・生活の支え合い活動、見守りの仕組みづくり、福祉学習・世代間交流について (斎、黄金、湯田川、大泉、田川地区) | 12人 |
| 研修会 | 12月3日 | ・災害時の要配慮者支援や災害ボランティアの役割 | 35人 |

| | | | |
|-------|------|--|-----|
| | | について | |
| 幹事会 | 2月6日 | ・次期地域支え合いプランについて ・お茶のみサロン助成金実施要綱の改正について ・役員の変更について | 8人 |
| 連絡委員会 | 3月4日 | ・次期地域支え合いプランについて ・お茶のみサロン助成金実施要綱の改正について ・役員の変更について | 18人 |

② おだがいさまのまちづくり事業

誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けていくための取組として、地域のサロン活動やボランティア活動への支援、更に、地域福祉推進組織と地域関係団体等との地域ケアネットワーク会議等を開催し、地域におけるネットワークづくりを進め、住民主体による見守り・支え合い活動の活性化を図りました。

a 福祉活動助成支援

- ・おだがいさまのまちづくり事業助成金交付（鶴岡地域）

学区・地区社協等が地域支え合いプランに基づいた福祉活動の取組ができるよう助成金の交付と地区担当職員による活動支援を行いました。

<活動の実施状況>

(単位:円)

| 団体名 | 活動内容 | 助成金額 |
|------------------|---|---------|
| 第四学区コミュニティ振興会 | 第四学区救急安心カード設置事業 | 100,000 |
| 第六学区コミュニティネットワーク | 子供から高齢者まで集まる居場所活用 | 100,000 |
| 京田地区社会福祉協議会 | 防災支援世帯の把握と支援対策 | 100,000 |
| 小堅地区社会福祉協議会 | 防災福祉マップ・安心カード・鍵預かり事業の更なる細分化と要援護者や要支援者への体制強化 | 100,000 |
| 湯野浜地区社会福祉協議会 | 湯野浜地区地域防災支え合い活動 | 100,000 |
| 大山社会福祉協議会 | 「大山地区除雪サポート隊」による要支援者サポート事業 | 100,000 |
| 西郷地区社会福祉協議会 | 西郷地区健康づくり事業 | 28,000 |

※令和6年度 7事業 令和5年度 7事業

<ふくし座談会の実施>・令和6年度は26件申請、うち14件実施

・令和5年度は30件申請、うち9件実施

- ・お茶のみサロン活動助成金交付（鶴岡地域）

鶴岡地域において、町内会・自治会等一定の区域を範囲として地域住民が主体となって取り組むサロン活動に対し、その活動費の一部を助成し地域の見守り活動への支援を図りました。

<助成件数> ・令和6年度 90件 ・平成5年度 80件

・各種活動助成事業（藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海地域）

町内会、集落等の自治組織、住民団体等が行う各種活動において、福祉課題の把握や地域ニーズに対応した小地域活動を支援し、住民主体の地域福祉活動の充実を図りました。

<実施状況>

（単位：箇所数）

| 福祉センター | サロン活動 | | 住民福祉座談会等 | | ボランティア活動 | | 人材育成 | | 福祉研修・講座 | | 地域福祉サービス等 | |
|--------|-------|----|----------|----|----------|----|------|----|---------|----|-----------|----|
| | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 |
| 藤島 | 23 | 20 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 羽黒 | 7 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 櫛引 | 7 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 朝日 | 10 | 14 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 温海 | 1 | 0 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |

b 小地域福祉活動支援

「おだがいさまのまちづくり計画 2020」の4つの基本的視点「気づきあい・つながりあい・支えあい・認めあい」に基づき、小地域福祉活動を支援し、また、一人暮らし高齢者などの緊急時に備える安心カードの設置は消防本部と情報共有を図り取り組みました。

<実施状況>

| 福祉センター | 事業内容 |
|--------|--|
| 鶴岡 | ① 地域支え合いプランの取組推進の支援 ② 安心カード設置活動 学区・地区社協等が民生委員・児童委員や町内会長などと連携し「安心カード」を設置。消防本部へ設置者名簿を提出。 |
| 藤島 | ① ふじしま安心カードの設置：世帯数 252 登録者数 283 人 町内会、民生委員・児童委員及び地域包括支援センターふじしまの協力により実施。 |
| 羽黒 | ① 緊急連絡カードの設置：設置数 361 世帯 529 人 民生委員・児童委員の協力により実施。 |
| 櫛引 | ① 支え合いネット活動 各地区の支え合いの仕組み推進のための住民座談会の開催：1 地区 ② 安心カードの設置数：638 世帯 947 人。保健福祉推進員、区長、民生委員・児童委員の協力により実施。 |
| 朝日 | ① 地域支援ネットワーク会議の開催：2 回 自治振興会、民生児童委員協議会、集落支援員、市民福祉課、地域包括支援センターあさひと地域支え合いプランの進捗状況を確認し今後必要とされる支え合い活動を協議 |

| | |
|-----|---|
| | ② 朝日地域おだがいさまネット活動推進事業 ・中央地区自治振興会「おだがいさま除雪支援ネット」 要支援者 26 人、サポーター16 人、支援回数 352 回 ・東部地区自治振興会「おだがいさま移動支援ネット」 要支援者 9 人、サポーター2 人、支援回数 130 回 ③ あさひ家族安心カード設置事業：カード設置数 1,058 世帯 自治振興会との協働事業として、自治会、民生児童委員協議会、 地域包括支援センターあさひ等からの協力により実施。 |
| 温 海 | ① 福祉連絡カードの設置 一人暮らし高齢者 474 世帯、二人暮らし 高齢者 400 世帯、高齢者のみ世帯 85 世帯 民生委員・児童委員の協力により実施。 |

c. 人にやさしいまちづくり事業

【鶴岡福祉センター（ボランティアセンター）】

外出や通院時の歩行が困難な状況にあり、公的なサービス利用ができずにいる方の社会参加支援として、また、学校や地域で行われる福祉教育や福祉体験事業等に対して車イス貸出し事業を実施しました。

| 活動内容 | 件数 |
|---------------|------|
| 車イス貸出し（9 台整備） | 18 件 |

【藤島福祉センター】

子育て世帯への支援を目的としたチャイルドシートの貸出しや、地域活動を支援するための遊具等の貸出しを行いました。

| 活動内容 | 件数 |
|-------------------|------|
| チャイルドシート貸出し（16 台） | 27 件 |
| 輪投げ等遊具貸出し（6 セット） | 11 件 |
| 擬似体験セット貸出し（3 セット） | 0 件 |
| 車イス貸出し（1 台整備） | 0 件 |

【羽黒福祉センター】

高齢者・障がい者・子育て世帯等が、地域の中で安心して暮らすことができる環境づくりや生活支援のための事業を実施しました。また、自殺予防対策として、「羽黒地域こころの健康づくり応援団」の活動支援や講演会を開催しました。

| 活動内容 | 件数等 |
|--------------------|------|
| 障がい者用駐車場（青色駐車場）の整備 | 2 か所 |
| チャイルドシート貸出し（43 台） | 35 件 |

| | |
|-----------------|-----|
| 車イス貸出し（4台整備） | 12件 |
| こころの健康づくり講演会の開催 | 71人 |
| こころの健康づくり出前講座 | 3回 |

【櫛引福祉センター】

子育てサポーター（10名）による保育園・小学校でのボランティア活動を月2回「もの作り」活動を実施し、保育園には牛乳パックで作ったイス等の寄贈を行いました。

| 活動内容 | 件数等 |
|------------------|------|
| 子育てサポーター研修・活動 | 31回 |
| チャイルドシート貸出し（81台） | 151件 |
| 車イス貸出し（8台整備） | 23件 |
| 遊具の貸出し | 49件 |

【朝日福祉センター】

子育て世帯への支援を目的としたチャイルドシートの貸出しや、地域活動を支援するための遊具等の貸出しを行いました。

| 活動内容 | 件数 |
|------------------|-----|
| チャイルドシート貸出し（15台） | 21件 |
| 輪投げ等遊具貸出し（31セット） | 70件 |
| 車イス貸出し（2台整備） | 5件 |

【温海福祉センター】

子育て支援としてのチャイルドシートの貸出し及び、ジュニアシートの貸出しを行い、外出支援として車イスを貸出しました。

| 活動内容 | 件数 |
|-----------------|-----|
| チャイルドシート（9台） | 16件 |
| ジュニアシートの貸出し（2台） | |
| 車イス貸出し（3台整備） | 3件 |

d 福祉関係団体等助成

福祉関係団体等への運営費助成及び活動助成金を交付し、活動支援を図りました。

<福祉団体等への活動助成の状況>

| 地域 | R4年度 | | R5年度 | | R6年度 | |
|----|------|-------------|------|-------------|------|-------------|
| | 団体数 | 助成金額 (円) | 団体数 | 助成金額 (円) | 団体数 | 助成金額 (円) |
| 鶴岡 | 9 | 548,000 | 8 | 474,000 | 9 | 528,000 |
| 藤島 | 7 | 305,000 | 8 | 315,000 | 8 | 315,000 |
| 羽黒 | 5 | 240,000 | 5 | 240,000 | 5 | 240,000 |

| | | | | | | |
|----|--|-----------|----|-----------|----|-----------|
| 櫛引 | 4 | 118,000 | 4 | 118,000 | 4 | 118,000 |
| 朝日 | 3 | 240,000 | 3 | 238,000 | 2 | 220,000 |
| 温海 | 5 | 310,000 | 4 | 290,000 | 2 | 270,000 |
| 合計 | 33 | 1,761,000 | 32 | 1,675,000 | 30 | 1,691,000 |
| 地域 | 助成団体 | | | | | |
| 鶴岡 | 老人クラブ、身体障害者福祉協会、民生児童委員協議会連合会、手をつなぐ親の会、遺族会、保護司会、民間保育園協議会、学区・地区社会福祉協議会連絡委員会、鶴岡市母子会 | | | | | |
| 藤島 | 老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、民生児童委員協議会連合会、児童健全育成町民会議(5地区) | | | | | |
| 羽黒 | 老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、手をつなぐ育成会、赤十字奉仕団、しゃべってほっとの会 | | | | | |
| 櫛引 | 老人クラブ、身体障害者福祉協会、婦人会、遺族会 | | | | | |
| 朝日 | 老人クラブ、民生児童委員協議会 | | | | | |
| 温海 | 老人クラブ、民生児童委員協議会 | | | | | |

e 仲間づくり交流事業（藤島・羽黒・櫛引）

町内会、集落等で開催されるお茶のみサロン等への活動支援や高齢者等を対象とした介護予防や健康増進、仲間づくりを目的とした講座等を地域の各種関係団体、専門機関との連携により実施し、地域住民の閉じこもり防止や生きがいがづくりに取り組みました。

【藤島福祉センター】

健康寿命の増進と運動を通じた高齢者の生きがいがづくりや仲間づくりを目的として、令和6年度は「いきいき健康づくり教室」を毎週金曜日に8回を1コースとして、藤島老人福祉センターを会場に実施しました。

【羽黒福祉センター】

集落等が実施するお茶のみサロン活動等に対して、羽黒庁舎市民福祉課や地域包括支援センターと連携し、健康増進や認知症予防等の事業企画や実施、また、自由参加型サロン「ハッピー広場」の実施へ支援を行いました。

【櫛引福祉センター】

櫛引地域の介護保険事業所と鶴岡市社協の事業所（デイサービス・居宅介護支援事業所・訪問介護事業所・地域包括支援センター・福祉センター）の協働により、通いの場等に出向いての活動支援として「ふれあい福祉講座」を年19回実施しました。

③ 会食・配食・交流事業

一人暮らし高齢者等の閉じこもり防止や食の楽しみ、社会参加を進めることを目的に、鶴岡地域では学区・地区社協等の主催、朝日地域、温海地域においてはボランティア団体等の

協働により、食事を伴う交流及び見守り事業等を支援しました。

【鶴岡福祉センター】

学区・地区社会福祉協議会等の地域福祉推進組織が実施主体となり、民生委員・児童委員、調理ボランティア、各種団体、地域ケア推進担当者より協力を得ながら、会食交流会及び配食サービスを実施しました。会食交流では、健康チェック、講話、レクリエーションを行い、参加者同士会話しながら楽しく会食し、配食については、体調等の見守りを行いながら実施しました。

<実施状況>

| 学区・地区名 | 実施回数 (回) | 会食者数 (人) | 配食者数 (人) |
|--------|----------|----------|----------|
| 第一学区 | 13 | 533 | 0 |
| 第二学区 | 9 | 237 | 0 |
| 第三学区 | 11 | 245 | 89 |
| 第四学区 | 10 | 337 | 0 |
| 第五学区 | 10 | 251 | 98 |
| 第六学区 | 12 | 291 | 115 |
| 斎地区 | 3 | 0 | 106 |
| 黄金地区 | 2 | 0 | 43 |
| 湯田川地区 | 7 | 93 | 143 |
| 大泉地区 | 10 | 0 | 194 |
| 京田地区 | 14 | 116 | 50 |
| 栄地区 | 7 | 0 | 83 |
| 田川地区 | 10 | 83 | 0 |
| 上郷地区 | 5 | 79 | 0 |
| 三瀬地区 | 12 | 0 | 383 |
| 由良地区 | 6 | 137 | 88 |
| 加茂地区 | 5 | 0 | 475 |
| 湯野浜地区 | 3 | 138 | 0 |
| 大山地区 | 10 | 299 | 0 |
| 西郷地区 | 2 | 0 | 62 |
| 合 計 | 161 | 2,839 | 1,929 |

【朝日福祉センター】

食事の支度や食材の買い出しに苦勞している方等の自宅へ週1回「にこにこ弁当」をお届けしました。事業周知は自治振興会や民生委員・児童委員等、弁当づくりは地元商店(6店)、スイーツづくりは食生活改善推進協議会、配達ボランティア団体「ほほえみ桜の会」が担うなど、様々な団体・機関等と連携しながら事業を実施しました。

<実施状況>

| 回数（回） | 配食者数（人） |
|-------|---------|
| 41 | 1,601 |

【温海福祉センター】

ボランティア（あたたかグループ）が調理した「あったか弁当」を、75歳以上の一人暮らし高齢者等の自宅へ配食を行いました。弁当の掛け紙の絵やメッセージは地元の小学生よりご協力いただき作成しました。

<実施状況>

| 回数（回） | 配食者数（人） |
|-------|---------|
| 11 | 1,442 |

④ 福祉有償移送サービス事業

バスやタクシーなどの公共交通機関を利用することが難しい高齢の方や障がいのある方の移動支援事業を福祉車両により行いました。また、運転者を対象とした安全運転講習を計2回実施し、安全・安心な運転方法などの基礎的な知識・技術を確認する機会をつくりました。

<事業実績>

（単位：登録数→人、運行回数→回）

| 年度 | 鶴岡 | | 朝日 | | 温海 | | 合計 | |
|----|-----|-------|-----|------|-----|------|-----|-------|
| | 登録数 | 運行回数 | 登録数 | 運行回数 | 登録数 | 運行回数 | 登録数 | 運行回数 |
| R4 | 74 | 1,273 | 30 | 264 | 68 | 220 | 172 | 1,757 |
| R5 | 71 | 1,093 | 33 | 647 | 73 | 165 | 177 | 1,905 |
| R6 | 74 | 1,094 | 43 | 654 | 56 | 104 | 173 | 1,852 |

※ 藤島・羽黒・櫛引地域在住の方は、鶴岡・朝日・温海いずれかの福祉センターで対応。

※ 登録数、運行回数はR7.3月末現在のもの。

⑤ ボランティア活動推進事業

◇鶴岡市ボランティアセンターの運営

<ボランティアセンター来所者数>

| 年度 | 合計 | 来所の主な目的 |
|----|--------|--|
| R4 | 1,059人 | ボランティア活動希望・依頼・登録等の相談、ボランティア保険相談・申請、福祉学習相談、情報提供、研修等協力依頼、その他ボランティア関係相談全般 |
| R5 | 1,252人 | |
| R6 | 889人 | |

< ボランティア登録状況 >

| 年度 | 個人 | 団体 | 主な分野 |
|----|------|-------|---|
| R4 | 52 人 | 65 団体 | 読み聞かせ、昔語り、福祉施設での活動、生活支援（傾聴含む）、学生・若者の活動、障がい者支援、子ども支援（学習支援・子ども食堂含）、災害支援、人材養成、環境美化、健康増進、外国人サポート、国際、演芸、まちづくり等 |
| R5 | 22 人 | 58 団体 | |
| R6 | 19 人 | 58 団体 | |

※R6 新規登録：1 個人、2 団体

< ボランティアセンター相談件数（電話・来所） >

（単位：件）

| 年度 | 活動依頼 | | | | | | | | 活動希望（計） | その他の相談対応 | | | | | | 合計 |
|----|------|-----|-----|----|----|------|-----|----|---------|----------|----------------|-------|-------|---------|-----|-------|
| | 高齢 | 障がい | 子育て | 環境 | 地域 | イベント | その他 | 小計 | | ボラ保険 | 講座・助成金・福祉学習・出前 | 物品等貸出 | 寄付・収集 | 災害（平時含） | その他 | |
| R4 | 9 | 12 | 3 | 5 | 5 | 4 | 12 | 50 | 132 | 275 | 149 | 123 | 167 | 71 | 350 | 1,317 |
| R5 | 14 | 7 | 3 | 3 | 5 | 2 | 8 | 42 | 71 | 265 | 129 | 156 | 146 | 125 | 308 | 1,242 |
| R6 | 15 | 7 | 0 | 1 | 10 | 9 | 9 | 51 | 50 | 333 | 92 | 93 | 101 | 144 | 271 | 1,135 |

◇ ボランティア活動を促進する取組等

・ 交流・研修会の実施

こども食堂活動団体とコンビニエンスストアとの連携事業を本格的に実施し、定期的な情報交換の場を設けて地域課題等を話し合う機会に結びました。また、中高校生等のボランティア交流会や県社協主催「山形つながりあったかいぎ」では、新たな関係づくりや体験ができる内容を取り入れて開催しました。

< 実施内容 >

| 月 | 事業名 | 内容 | 場所 | 参加人数 |
|-----|---------------------------|--|-------|------|
| 4月 | こども食堂活動団体情報交換会（5 団体 1 企業） | コンビニとの連携事業開始式、活動情報交換 | にこ♡ふる | 10 人 |
| 6月 | こども食堂活動団体情報交換会（5 団体 1 企業） | コンビニとの連携 3 か月間の取組状況と各団体の活動情報交換 | かたりあい | 9 人 |
| | 担い手養成研修 | 介護予防・日常生活支援総合事業で「ボランティア活動について」の講座を実施（市事業に協力） | にこ♡ふる | 17 人 |
| 11月 | きこえのバリアフリー教室「聴覚障がいと要約筆記」 | 要約筆記についての講座と体験等（ボランティア団体事業に協力） | にこ♡ふる | 20 人 |
| 12月 | こども食堂活動団体情報交換会（5 団体 1 企業） | コンビニとの連携事業、各団体の活動情報交換、他 | かたりあい | 11 人 |

| | | | | |
|----|--------------------------|---|----------------------|-----|
| 2月 | 中高生等ボランティア交流会 in 鶴岡 2024 | 各活動紹介、障がい者サポートボランティア入門講座（聴覚障がいの理解）、他 | 市役所別棟 2号館 | 32人 |
| 3月 | 山形つながりあったかいぎ in 鶴岡 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかキネ de トークショー ・出張！だがしや楽校 ・グループワーク、総括 ・3.11 東日本大震災被災者に想いを寄せるエンディング ・対象：県内で福祉、教育、まちづくり、ボランティア等の活動をしている人、関心がある人 ※主催：県社協 協力：NPO 法人公益のふるさと創り鶴岡、Kickin' DanceFam、鶴岡市社協 | 鶴岡まちなかキネマ、鶴岡市社協本部会議室 | 43人 |

・企業等と連携した活動

企業等からの地域貢献活動に関する相談に対し、地域の団体の活動等と繋ぐなど支援しました。さらに、7月の大雨災害による鶴岡市内外の被災地での活動や、山間部の高齢者宅の除排雪を支援する活動に対し多くの企業より参加協力をいただきました。

<実施内容>

| 相談件数 | 実施企業等 | 主な内容と件数 (企業数) |
|------|-------|--|
| 16 | 15 | 相談・実施 災害9(9)、フードドライブ1(1社24店舗)、除雪2(2) 環境美化1(1)、こども食堂へ寄付3(2) |

・ボランティア団体助成事業

ボランティア団体の活動を支援し、地域の福祉力向上を図るため4団体へ助成金(計80,000円)を交付しました。

<交付団体数(分野別)>

(単位:件)

| 年度 | 芸能 | 読み聞かせ | 昔語り | 学生若者 | 高齢者支援 | 障がい者支援 | 子ども子育て | その他 | 計 |
|----|----|-------|-----|------|-------|--------|--------|-----|---|
| R4 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 7 |
| R5 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 1 | 6 |
| R6 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 |

<交付団体名>

- 1) 庄内なつメロ会
- 2) 鶴岡バイオリンサークル
- 3) こどもの森食堂
- 4) 高校生ボランティアサークル「かだんこの会」

◇ 災害に関する取組

・災害ボランティアセンター設置・運営訓練

鶴岡市総合防災訓練において、災害ボランティアセンター設置・運営訓練を、行政や関係団体、開催地地域住民等の協力により実施しました。

<実施状況>

| 月 | 内容 | 参加者 | 開催地 | 参加人数 |
|----|-------------------------|---|---------|------|
| 9月 | ・災害ボランティアセンター1日の流れの対応訓練 | ・スタッフ役 鶴岡青年会議所、市社協職員 ・ボランティア役 NPO法人、第二学区住民 | 朝陽第二小学校 | 37人 |

・災害に関する研修会、出前講座

地域の団体等から依頼された、災害ボランティアに関する講座を開催したほか、学区・地区社会福祉協議会共催による「災害ボランティア研修会」、映画と福祉のコラボ事業「山王キネまち大学」で災害に関する研修に取り組みました。

<実施状況>

| 月 | 事業名 | 内容 | 場所 | 参加人数 |
|-----|---|---|----------------|------|
| 5月 | 第五学区会食交流会 防災講話 | ・災害発生を想定した備え、行動 ・鶴岡市民の災害ボランティア活動 講師：ボランティアセンター職員 | 第五学区 コミセン | 52人 |
| 10月 | 稲生町町内会 防災講演 | ・災害に対する心構え等 ・災害被災地出のボランティア活動 講師：NPO 法人鶴岡災害ボランティア ネットワーク理事 粕谷政雄氏 榎とよみ代表 小川豊美氏 | 稲生町 公民館 | 18人 |
| | 外国人支援者向け セミナー ※出羽庄内国際村主催 鶴岡市社協等が協力 | ・外国人のための防災研修 地震の時どうする、消火器の使い方等 講師：県防災学習館職員 参加：外国人、通訳ボラ等 | 県防災学習館 | 42人 |
| | | ・外国人支援者向け研修 ①能登半島地震における JICA の取組と在在外国人に対する教訓 講師：JICA 課長 松元秀亮氏 ②災害ボランティアの現状と地域のつながり 講師：ウェザーハート災害福祉事務所代表 千川原公彦氏 | 出羽庄内 国際村ホール | 25人 |
| | | ・外国人、支援者合同研修 避難所体験 講師：千川原氏、市防災安全課、 協力：NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワーク、 ボランティアセンター等 | 出羽庄内 国際村ホール | 72人 |

| | | | | |
|-----|---------------------------|---|--------------|-----|
| 11月 | 羽黒第四地区自治振興会防災講話 | ・令和6年7月の豪雨災害の現状と災害ボランティアの活動について 講師：ボランティアセンター職員 | 羽黒第四活動センター | 28人 |
| | 第四学区交流会食会防災講話 | ・一人暮らしの防災への心がまえと対策 ・災害への備え「私にできること」 講師：鶴岡市ボランティアセンター 鶴岡市社協地域福祉課職員 | 第四学区 コミセン | 32人 |
| | 鶴岡市・NPO・市社協災害発生を想定した情報交換会 | ・7月大雨災害の振り返りと今後に向けた最重点課題等 ・鶴岡市避難所、福祉避難所の現状・検討課題等 ・参加 鶴岡市（防災安全課、コミュニティ推進課、地域包括ケア推進課、福祉課、藤島庁舎総務企画課）、NPO法人鶴岡災害ボランティアネットワーク、鶴岡市社協 | 市役所 別棟2号館 | 14人 |
| 12月 | 災害ボランティア研修会 | ・講演「災害時の要配慮者支援や災害ボランティアの役割について」 講師：ウェザーハート災害福祉事務所代表 千川原公彦氏 ※学区・地区社協連絡委員会との連携事業 | 鶴岡市社協本部会議室 | 35人 |

◇ 各福祉センターの主な取組

< ボランティア養成講座等の実施状況 >

| | 内 容 |
|--------------------------|---|
| ボランティアセンター (鶴岡福祉センター) | ・ちょボラ場(ちょっとしたボランティア活動)69回、延べ180人参加 ・こども食堂活動への支援(連携しているこども食堂5団体) (1)ボランティア調整 18件、延べ36人(母子会主催事業) (2)食材等寄付の調整 7件(5団体へ) |
| 藤島福祉センター | ・ちょボラ場(ちょっとしたボランティア活動)延べ25人参加 |
| 羽黒福祉センター | ・ボランティア活動支援(傾聴ボラ シャベってほっとの会) ・ミニサマーチャレンジ(自治振興会と合同開催3回40人参加) |
| 櫛引福祉センター | ・サマーチャレンジ in くしびき 「認知症カフェ参加」「防災講習」「青色駐車場整備」延べ23人参加 ・ボランティア活動支援(子育てサポーター) ・カーブミラー清掃 延べ45人参加 |
| 朝日福祉センター | ・地域ぐるみの配食事業にボランティア団体「ほほえみ桜の会」が弁当配達で、食生活改善推進協議会朝日地域がスイーツづくりで参加・協力 延べ97人参加 ・要援護世帯等の転居支援ボランティア調整 3件、延べ 16人 ・ボランティア活動支援(ほほえみ桜の会・さわやかなの会) |

| | |
|----------|---|
| 温海福祉センター | ・青少年ボランティア養成講座（鶴岡市教育委員会と共催）「バ ルーンアートボランティア交流会」2回開催 延べ14人参加 |
|----------|---|

◇ 福祉教育の推進

・福祉学習助成金交付状況

児童・生徒の「福祉のこころ」を育むため、小・中学校と連携した福祉学習、ボランティア体験学習に対して助成金を交付しました。

<実施状況>

| 年度 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 (高専含) | 特別支援 学校 | 計 | |
|----|-----|-----|---------------|------------|-----|----------|
| | | | | | 学校数 | 金額 |
| R4 | 11校 | 4校 | 2校 | 1校 | 18校 | 485,000円 |
| R5 | 12校 | 3校 | 4校 | 1校 | 20校 | 533,000円 |
| R6 | 12校 | 4校 | 4校 | - | 20校 | 549,000円 |

※助成限度額 1校当たり 30,000円

・福祉学習サポーター活動

福祉学習等に協力するサポーター16人が登録し、小中学校等の依頼に対し、サポーターよりご協力をいただきながら福祉学習を実施しました。

<実施状況>

| 年度 | 回数 | 延べ人数 | 実施内訳（延べ回数） |
|----|----|------|---------------------|
| R4 | 5回 | 14人 | 小学校3、中学校1、サマーチャレンジ1 |
| R5 | 7回 | 14人 | 小学校5、中学校1、サマーチャレンジ1 |
| R6 | 2回 | 11人 | 小学校2 |

・各福祉センターの主な取組

<福祉学習の実施状況>

| | 回数 | 参加延べ 人数 | 内容・対象 |
|----------|-----|------------|--|
| 鶴岡福祉センター | 12回 | 786人 | ・福祉学習 小学校6、中学校2 ・出前講座 地域2、児童館1、高校1 上郷小学校で、自治振興会と連携したコ ミュニティ・スクールが地域住民も参加 した新たな取組としてスタート。 ※災害講座を除く |
| 藤島福祉センター | 3回 | 107人 | ・「藤島の未来を考える」 地域住民 (機関) 14名 中学全3年生 83名 ・「経済とは何か」 小学6年生 小学校2 (各12名) |
| 羽黒福祉センター | 1回 | 69人 | ・障がいや認知症に関する理解促進を 図る学習 中学校1 |

| | | | |
|----------|-------------|---------------|---|
| 櫛引福祉センター | ①19回 ②2回 | ①214人 ②22人 | ①ふれあい福祉講座 地域住民（サロン出前講座） ②高齢者疑似体験・車いす体験・障がい を理解する福祉学習 小学校1 |
| 朝日福祉センター | 3回 | 46人 | ・福祉学習（福祉センター職員・車イス ユーザーの講話、青色駐車場塗装体 験等） 小学校1 ・地域福祉講座 ボランティア団体1 |

⑥ 地域福祉運営事業

・鶴岡市社会福祉協議会表彰状の贈呈

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中断していた「福祉のつどい」を、5年ぶりに「社協表彰贈呈式」&「福祉と映画」のコラボ事業として開催しました。地域福祉活動などに功績顕著な4個人、3団体に対して表彰を行い、その後、ヤングケアラーを題材とした映画「猫と私と、もう1人のネコ」を午前・午後の2回上映しました。

<令和6年度鶴岡市社会福祉協議会福祉のつどい>

- ・期 日 令和6年11月12日(火)
- ・会 場 鶴岡まちなかキネマ/93名出席
- ・受賞者 【表彰状】

特定非営利活動法人ぼらんたす(福祉団体)、しゃべってほっとの会(福祉団体)、大川幸雄氏(社会福祉活動奉仕者)、佐藤芳彌氏(社会福祉活動奉仕者)

【感謝状】

♥チューリップサークル(福祉団体)、遠藤麗子氏(社会福祉活動奉仕者)、五十嵐仁氏(寄付者)

※令和5年度 表彰状受賞者 個人 1名、団体 4名
感謝状受賞者 団体 3名

・「鶴亀番付」の発行

数え年で100歳以上の長寿者をお祝いするとともに市民の励みとしてもらうことを目的に、敬老の日に合わせて鶴岡市と連携し「鶴亀番付」(相撲の番付風に長寿者を記載)を発行しました。

- ・発行部数 1,000部
- ・配布先 番付掲載者、公民館、学区・地区社協等、各福祉センター、高齢者福祉施設等

< 番付掲載者数の状況 >

| 年度 | 人数 |
|----|-------|
| R4 | 220 人 |
| R5 | 218 人 |
| R6 | 233 人 |

⑦ 重層的支援体制整備事業への移行準備事業（鶴岡市委託事業）

重層的支援体制整備事業移行準備事業の必須事業である多機関協働事業のほか、参加支援事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業について実施し、単独の支援機関では対応が難しい事例への多機関調整役を担い、関係機関の役割分担や支援の方向性を検討しました。また、継続的な関わりを要する方へのアウトリーチを行うための情報収集や相談支援、就労機会や地域の居場所へと繋げる参加支援を通じて地域づくりにも努めました。

< 実施状況 >

| | 多機関協働による支援会議 | | | 継続的 アウト リーチ | 参加支援 | | 事業検討・周知 | |
|----|--------------|------------|-------------|-------------------|------------|--------------|--------------|-------------|
| | 重層的 支援会議 | 個別支援 会議 | 他機関 開催会議 | | 情報提供 支援 | 現場での 参加支援 | 打合せ・ 事例検討 | 研修・ 広報活動 |
| R6 | 3 件 | 9 件 | 28 件 | 115 回 | 13 回 | 31 回 | 22 回 | 27 回 |

・多機関協働における連携機関：地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、鶴岡地域生活自立支援センター、子ども家庭センター、居宅介護支援センター、医療機関（総合病院・精神科病院）、鶴岡警察署、庄内保健所、民生委員・児童委員、鶴岡市行政機関（健康課・福祉課・建築課）、鶴岡市社協生活支援課

※他機関開催会議…包括的相談支援事業者等開催会議への地域福祉ワーカー出席件数

※継続的アウトリーチ…民生委員協議会等への出席による情報発信や収集、同行支援件数

※参加支援による支援…支援対象者に対する参加支援にかかる情報提供や同行支援の件数

⑧ コミュニティソーシャルワーク機能の充実

地域福祉課と各福祉センターの地区担当職員を地域福祉ワーカーとして位置づけ、コミュニティソーシャルワークの実践体制を構築し、個別ケースの相談対応及び、課題解決を図るため地域支援にも努めました。

・相談対応件数 2,138 件

<相談内容>

(単位:件)

| 相談内容 | 病気・健康・障がい | 住まい | 収入・生活費 | 家賃・ローン | 税金・公共料金 | 債務 | 仕事探し・就職 | 地域との関係 | 家族関係 | ひきこもり・不登校 | D V | 食べるものがない | 虐待 | 介護 |
|------|-----------|-----|--------|--------|---------|-----|---------|--------|------|-----------|-----|----------|----|----|
| 鶴岡 | 315 | 112 | 208 | 45 | 26 | 134 | 126 | 10 | 22 | 55 | 0 | 42 | 11 | 7 |
| 藤島 | 123 | 15 | 134 | 10 | 19 | 100 | 58 | 10 | 56 | 42 | 2 | 22 | 13 | 23 |
| 羽黒 | 113 | 10 | 57 | 2 | 11 | 20 | 20 | 4 | 11 | 15 | 1 | 15 | 4 | 27 |
| 櫛引 | 59 | 28 | 74 | 0 | 7 | 5 | 18 | 3 | 15 | 4 | 0 | 14 | 1 | 5 |
| 朝日 | 137 | 117 | 115 | 3 | 6 | 22 | 83 | 52 | 101 | 8 | 5 | 2 | 13 | 14 |
| 温海 | 98 | 52 | 97 | 1 | 7 | 49 | 32 | 3 | 50 | 9 | 0 | 8 | 3 | 7 |
| 合計 | 845 | 334 | 685 | 61 | 76 | 330 | 337 | 82 | 255 | 133 | 8 | 103 | 45 | 83 |

| 相談内容 | 教育資金 | 子育て | ゴミ屋敷 | ペット | 依存症 | その他 | 合計 |
|------|------|-----|------|-----|-----|-----|-------|
| 鶴岡 | 0 | 2 | 29 | 5 | 0 | 55 | 1,204 |
| 藤島 | 3 | 14 | 8 | 2 | 1 | 65 | 720 |
| 羽黒 | 4 | 20 | 0 | 8 | 0 | 25 | 367 |
| 櫛引 | 2 | 0 | 4 | 3 | 1 | 41 | 284 |
| 朝日 | 4 | 23 | 3 | 8 | 0 | 89 | 805 |
| 温海 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 165 | 583 |
| 合計 | 13 | 59 | 45 | 27 | 2 | 440 | 3,963 |

※相談内容のカウントは重複あり。

⑨ ふれあい福祉相談（巡回法律相談）の開設

住民の福祉に関する相談に対して常設相談を開設し、電話等により受け付けた相談は担当地区の地域福祉ワーカー等につなげ対応しました。山形県弁護士会等からの協力による無料法律相談を年14回開設し、相続など法的な相談に対し専門的な助言指導により早期解決に向けた一助となりました。

| 項 目 | | 鶴岡 | 藤島 | 羽黒 | 櫛引 | 朝日 | 温海 | 合計 |
|-----|------|----|----|----|----|----|----|-----|
| R4 | 法律相談 | 84 | 8 | 4 | 2 | 5 | 8 | 111 |
| R5 | 法律相談 | 63 | 7 | 8 | 6 | 6 | 8 | 98 |
| R6 | 法律相談 | 64 | 8 | 8 | 8 | 8 | 4 | 100 |

※令和4年度は年16回開設。

※常設相談の件数は地域福祉ワーカーの相談件数と同数。

⑩ 社会福祉法人の公益的な取組の推進

連絡会参加法人職員の公益的な取組に対する意識啓発を図ることを目的に、活動周知のため鶴岡市社協ホームページ上に連絡会参加法人の取組内容の掲載を継続しました。また、支援を必要とする方に対する社会参加支援の事例報告、合同フードドライブ事業を通じた食糧支援、災害時のボランティア募集に関して協議し活動に取り組みました。

<社会福祉法人における公益的な取組にかかる連絡会>

| 会議名 | 開催月日 | 主な内容 | 参加者 |
|------------|--------|--|-----|
| 第1回 連絡会 | 9月24日 | ・公益的な取組の情報発信について ・令和6年度の取組みについて (社会参加に向けた支援について、9法人合同フードドライブについて、災害ボランティアについて) | 15人 |
| 被災地 支援 | 10月29日 | 7月25日からの大規模災害にかかる被災地でのボランティア活動(活動場所:酒田市) | 8人 |
| 第2回 連絡会 | 2月25日 | ・災害支援について ・令和7年度の取組みについて (9法人合同フードドライブについて、9法人若手職員向けワークショップについて) | 15人 |

⑪ 災害支援状況

令和6年7月25日からの大規模災害により、鶴岡市災害ボランティアセンターを開設し災害支援を図り、山形県社会福祉協議会等の応援要請により、大規模災害が発生した他市町村社協が設置した災害ボランティアセンターの支援に努めました。

・災害ボランティアセンターの開設

<令和6年7月25日からの大雨災害>

○鶴岡市内（7/28～8/9 鶴岡市災害ボランティアセンター設置。その後8/20までボラセン業務で対応）

| 活動地域名 | ボランティア活動 | | 備 考 |
|-------|----------|-----|--|
| | 回数 | 延人数 | |
| 藤島地域 | 11 | 65 | <p>○活動内容</p> <p>家財道具・畳等の搬出、集積所への運搬、清掃等</p> <p>○協力企業・団体（敬称省略）</p> <p>・ボランティア活動</p> <p>（株）タマツ、ヒューマンテック（株）、日栄産業（株）、NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワーク、真如苑 SeRV、公益社団法人、鶴岡青年会議所、庄内郵便局長会鶴岡第三部会、藤島ライオンズクラブ、宮城県大崎市社会福祉協議会、他個人登録者</p> <p>・寄付</p> <p>生活協同組合共立社、（株）東北ノイアック、関西社協コミュニティワーカー協会、コープこうべ、サンサービス、（株）とよみ、宮城県大崎市社会福祉協議会、鶴岡市防災安全課</p> <p>○藤島地域以外への対応</p> <p>・床上浸水被害があった地域のコミセン、町内会等からの状況確認、被災世帯への訪問</p> |

・他市町村への災害支援状況

<令和6年1月1日発生の能登半島地震への支援>

| 市町村名 | 職員派遣 | | | ボランティア活動 | | 備 考 |
|------------|------|-----|-----|----------|-----|---|
| | 日数 | 実人数 | 延人数 | 回数 | 延人数 | |
| 石川県 志賀町 | 7 | 1 | 7 | | | <p>山形県社協からの応援要請</p> <p>・災害ボランティアセンター職員派遣 石川県志賀町 6/20～6/26</p> |

<令和6年7月25日からの大雨災害への支援>

| 市町村名 | 職員派遣 | | | ボランティア活動 | | 備 考 |
|------------|------|-----|-----|----------|-----|--|
| | 日数 | 実人数 | 延人数 | 回数 | 延人数 | |
| 山形県 酒田市 | 20 | 18 | 40 | 5 | 34 | <p>・災害ボランティアセンター職員派遣</p> <p>山形県社協からの応援要請 7/30～</p> <p>・ボランティア活動 8/24、10/4、10/9、10/16、10/29</p> |

| | | | | | | |
|------------|----|----|----|---|----|---|
| | | | | | | NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワーク登録者・社会福祉法人連携における公益的な取組にかかる連絡会・一般ボランティア協力 |
| 山形県 遊佐町 | 15 | 17 | 32 | | | ・災害ボランティアセンター職員派遣 山形県社協からの応援要請 7/30～ |
| 山形県 戸沢村 | 10 | 2 | 10 | 3 | 23 | ・災害ボランティアセンター職員派遣 山形県社協からの応援要請 7/30～ ・ボランティア活動 9/1、9/6、10/4 NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワーク登録者・一般ボランティア協力 |
| 山形県 庄内町 | | | | 1 | 10 | ・ボランティア活動 8/11 NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワーク登録者協力 |

⑫ 大震災等支援活動推進事業（山形県社協委託事業）

未曾有の大震災から13年目を迎えた令和6年度も、山形県社会福祉協議会の委託を受け避難者生活支援相談員1名を配置し支援活動を継続しました。令和5年度までは新型コロナウイルス感染症の影響により、電話による状況確認が主となりましたが、戸別訪問活動も再開しほとんどの避難者の方々が、地域の一員として安定した生活状況であることを確認しました。

<避難者数の推移>

(単位：世帯/人)

| 年度 | 全体 | | 福島県 | | 宮城県 | |
|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| | 世帯数 | 人数 | 世帯数 | 人数 | 世帯数 | 人数 |
| R4 | 30 | 87 | 23 | 67 | 7 | 20 |
| R5 | 28 | 85 | 22 | 66 | 6 | 19 |
| R6 | 27 | 82 | 21 | 63 | 6 | 19 |

※各年度末の世帯数及び人数

・避難者交流事業

避難者同士の交流事業については、避難後年数が経過したことや鶴岡市へ定住していることでの意識の変化により、交流に関するニーズがなく未実施となりました。

・訪問、相談活動

山形県の事業による全戸訪問を実施し、現況を把握するとともに、今後の生活に関する意向を確認しました。また、健康不安のある世帯や高齢者世帯には、元医療関係従事者の協力のもと同行訪問を行い、健康相談をあわせて行いました。

<相談対応状況：方法>

(単位：件)

| 年度 | 訪問 | 電話 | メール | 来所 | つなぎ | 他 | 合計 | | |
|----|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | 避難者 | 支援者 | 計 |
| R4 | 140 | 223 | 138 | 39 | 1 | 15 | 227 | 329 | 556 |
| R5 | 116 | 189 | 178 | 40 | 0 | 3 | 194 | 332 | 526 |
| R6 | 204 | 222 | 246 | 32 | 0 | 0 | 365 | 339 | 704 |

<相談対応状況：種別>

(単位：件)

| 年度 | 住まい | 健康医療 | 子ども | 高齢者 | 職業 | 金銭 | 他 | 合計 | | |
|-----|---|------|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|-------|
| | | | | | | | | 避難者 | 支援者 | 計 |
| R4 | 12 | 202 | 70 | 121 | 42 | 3 | 393 | 480 | 363 | 843 |
| R5 | 7 | 216 | 69 | 115 | 52 | 3 | 375 | 422 | 415 | 837 |
| R6 | 17 | 234 | 73 | 107 | 86 | 16 | 635 | 651 | 517 | 1,168 |
| 連携先 | 福島県避難者支援課、山形県復興・避難者支援室、山形県社会福祉協議会、鶴岡市関係各課、やまがた避難者支援協働ネットワーク、NPO団体、ボランティア団体等 | | | | | | | | | |

※合計欄には、避難者と支援者の合計数。<相談対応状況：種別>については重複あり。

- ・関係団体との連携：山形県や鶴岡市など行政をはじめNPO団体やボランティア団体と連携し、避難者の方々への支援強化に努めました。

⑬ 就労体験受け入れ事業

就労について相談された方に対し、鶴岡市社協の福祉施設で期間を限定して雇用し、働くための生活リズムを整え、継続就労に向けた働く機会の場の提供に努めました。

<実施状況>

(単位：人)

| 年度 | 体験者数 | 一般就労への移行者数 |
|----|------|------------|
| R4 | 1 | 0 |
| R5 | 0 | 0 |
| R6 | 0 | 0 |

⑭ 福祉バス運行事業（鶴岡市委託事業）

福祉関係団体やボランティア団体等の地域福祉推進を目的とした研修や社会参加活動に対し、福祉バス運行による支援を行いました。

※運行台数：鶴岡地域 2 台、藤島地域 1 台

<実施状況>

| 年度 | 鶴岡 | | | 藤島 | | |
|----|------|------|--------|------|------|--------|
| | 運行日数 | 運行回数 | 延べ利用人数 | 運行日数 | 運行回数 | 延べ利用人数 |
| R4 | 151日 | 204回 | 3,001人 | 22日 | 22回 | 301人 |
| R5 | 160日 | 239回 | 3,668人 | 22日 | 22回 | 306人 |
| R6 | 164日 | 251回 | 3,973人 | 24日 | 24回 | 331人 |

※運行台数：鶴岡地域 2 台、藤島地域 1 台

⑮ 老人福祉センターの運営事業

高齢者に対して健康の増進、教養の向上、生きがいの増進及びレクリエーションなど気軽に利用できる場として運営し、社会参加の促進を図りました。

<開設・利用状況>

(単位：人)

| 年度 | 鶴岡 | | 藤島 | | 羽黒 | | 櫛引 | |
|----|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| | 開設日数 | 利用者数 | 開設日数 | 利用者数 | 開設日数 | 利用者数 | 開設日数 | 利用者数 |
| R4 | 242日 | 9,763 | 52日 | 460 | 143日 | 1,427 | 215日 | 3,190 |
| R5 | 243日 | 9,850 | 49日 | 439 | 137日 | 1,647 | 243日 | 4,446 |
| R6 | 243日 | 9,565 | 44日 | 408 | 109日 | 1,331 | 243日 | 2,810 |

(4) 共同募金配分金事業

① 募金運動

赤い羽根募金と歳末たすけあい募金合わせて戸別募金 500 円を目安に募金運動を展開し、住民の方々から多くのご協力をいただきました。

<募金実績>

(単位：円)

| 年度 | 戸別募金 | 学校募金 | 法人募金 | その他募金 | 合計 |
|----|------------|---------|---------|-----------|------------|
| R4 | 15,887,264 | 471,968 | 891,000 | 1,753,260 | 19,003,492 |
| R5 | 15,734,036 | 460,068 | 879,200 | 1,666,824 | 18,740,128 |
| R6 | 15,473,807 | 475,682 | 879,000 | 1,999,392 | 18,827,881 |

② 配分

赤い羽根募金（令和 6 年度分）については、市内の 21 の事業所等に配分決定され、令和 7 年度の地域福祉活動等に配分金が活用されます。歳末たすけあい募金については、経済的に支援が必要な世帯、児童養護施設入所者に義援金としてお渡ししました。

<福祉施設・団体への配分>

| 配 分 事 業 | R6 年度 | | R5 年度 | |
|--------------|--------|-----------|-------|-----------|
| | 件数 (件) | 金額 (円) | 件数(件) | 金額 (円) |
| 地域福祉・在宅福祉事業 | 7 | 1,582,000 | 6 | 1,387,000 |
| 「福祉の心」推進事業 | 0 | 0 | 1 | 50,000 |
| 障がい者就労支援事業 | 3 | 300,000 | 2 | 200,000 |
| 民営学童保育所支援事業 | 8 | 788,000 | 11 | 1,072,000 |
| 福祉車両整備事業 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 子ども食堂等運営支援事業 | 2 | 200,000 | 1 | 100,000 |
| 合 計 | 20 | 2,870,000 | 21 | 2,809,000 |

<地域福祉活動推進のため鶴岡市社会福祉協議会へ配分>

(単位：円)

| 配 分 事 業 | R6 年度 | R5 年度 |
|--------------|-----------|-----------|
| ボランティア活動推進事業 | 1,585,881 | 1,238,128 |
| 地域支え合い体制推進事業 | 4,589,000 | 4,593,000 |
| 広報誌発行事業 | 1,500,000 | 1,500,000 |
| 合 計 | 7,674,881 | 7,331,128 |

<歳末たすけあい募金配分>

| 区 分 | 世帯員数 | R6 年度 | | R5 年度 | |
|------------------------|-------|-------|-----------|-------|-----------|
| | | 件数(件) | 金額(円) | 件数(件) | 金額(円) |
| 経済的に支援 を必要とする 世帯 | 1 人 | 196 | 1,176,000 | 210 | 1,260,000 |
| | 2 人 | 83 | 664,000 | 92 | 736,000 |
| | 3 人 | 57 | 570,000 | 55 | 550,000 |
| | 4 人 | 28 | 336,000 | 37 | 444,000 |
| | 5 人以上 | 28 | 420,000 | 30 | 450,000 |
| | 小計 | 392 | 3,166,000 | 424 | 3,440,000 |
| 児童養護施設入所児童・生徒 | | 15 | 295,000 | 15 | 265,000 |
| 募金運動に関わる事務費経費 | | — | 103,000 | — | 111,000 |
| 合 計 | | 407 | 3,564,000 | 439 | 3,816,000 |

2. 生活支援事業

(1) 総括

新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付のフォローアップ支援では、償還に関する相談や償還免除・償還猶予に係る申請手続きの支援など、鶴岡地域生活自立支援センター（くらしス）等と連携し、電話連絡や訪問等を通じ世帯状況の把握も行いながら支援を行いました。一連の取組について全社協や福島県社協から評価をいただき、事例発表や広報誌への原稿入稿に応えました。

加齢や障がい等により判断能力に不安がある方を対象とした日常生活自立支援事業では、経済的虐待案件や動物の多頭飼育案件など一つひとつの事案が多様化してきていることから、より関係機関等と連携を密にしながら支援しました。

成年後見事業では、鶴岡市成年後見センターの運営を受託してから2年が経過するなか、主要業務である権利擁護支援検討会議の定期開催のほか、広報紙への取組掲載や後見人、関係機関を参集して情報共有を行う後見人支援チーム会議の開催など、成年後見センターが担うべき機能の充実に向け、法律等専門職及び相談支援機関とも連携しながら適正な運営に努めました。法人後見事業では、新規受任ケースや継続ケースの支援状況を運営委員会に報告し、後見業務に対する助言等をいただきながら適正な業務遂行に努めました。

新たな生活支援サービスの検討では、鶴岡市障害者相談支援センターとの協議を踏まえ、事業の具体的内容について、個別に事業利用者を想定しながら協議を重ねました。

(2) 重点事業

① 成年後見制度中核機関運営の機能充実

中核機関（鶴岡市成年後見センター）の運営2年目となり、活動を充実させることができました。チラシとリーフレットを福祉関係機関やコミセン等127か所に配布、12月には広報おだがいさまで取り上げたところ、成年後見制度にかかる相談が年間で17件寄せられ、個別の対応や関係機関との連携を通じて、問題把握に努めました。出前講座は福祉施設職員向けに1回、市民向けに1回開催しました。市長申立てに係る受任者調整会議は6回開催し、資料や運営方法を工夫しながら適切な後見人候補者の選任を行うとともに、後見人支援チーム会議を1回開催して、後見活動の円滑な始動を支援することができました。一方で、支援困難事例検討会議は2回にとどまり周知不足が課題となっています。

② 日常生活自立支援事業の適正な業務管理と関係機関との連携

高齢、障がいの相談機関や行政、病院等各所から利用契約の相談を受けるなか、令和5年4月に県社協から示された日常生活自立支援事業推進方針に基づいて、利用対象であるかどうかの判断や疑義が生じる場合は再度関係機関から情報収集を行うなどして、適切な事業推進に努めました。関係機関には、電話対応時等を活用し随時、推進方針について周知しながら、病院1か所には訪問して相談員に直接説明を行うなど理解の拡大に努めました。施設利用者については、積極的に口座振替設定を促進しつつ、施設での日用品費の最大金額を確

認しながら支援回数の削減に努めました。また、利用者の特性等を踏まえ、各施設に訪問する生活支援員の統一を図り、生活支援員の負担軽減や事業の効率化を進めました。

③ 貸付フォローアップ支援の強化

生活福祉資金特例貸付及び緊急小口資金拡充支援資金貸付については、令和5年1月から償還が開始され、借受世帯の多くが令和6年12月に償還期限を迎えました。

償還免除、猶予申請手続きの支援のほか、電話連絡や訪問、手紙によるアプローチを行うなど、継続的に関わり、必要に応じて鶴岡地域生活自立支援センター（くらしス）等の関係機関とも連携し、生活の安定につながるよう支援しました。また、各福祉センター、くらしスと情報を共有し、支援のあり方を確認しながら対応に努めました。

④ 新たな生活支援サービスの具体化

鶴岡市障害者相談支援センターとの協議を踏まえ、対象を福祉サービス利用援助事業の利用者に限定し、事業内容を賃貸住宅契約時、賃貸住宅入居中、将来の転居準備の3つの場面に想定し、要綱等の検討を行いながら、利用者の中から、契約に馴染む利用者3名を選定し、それぞれの住まいにかかる課題の把握、今後の転居に向けた目標の聞き取り、相談機関や不動産会社等からの情報収集を行い、令和7年度中の事業実施に向けて取り組みました。

(3) 生活支援関連事業

① 日常生活自立支援事業（山形県社協委託事業）

初期相談の段階から成年後見制度の利用が想定される認知症高齢者が増えました。収支や負債の把握、相続手続き、親族状況の確認を進め、第三者管理に慣れた段階で後見へ移行したケースが2件、認知症の進行や家族の死亡、施設入所の必要から後見申立てがなされ後見へ移行したケースが4件ありました。そのうち法人後見へ移行したケースが3件ありました。収支の全体が把握できる本事業の機能を生かして、後見申立時に必要な財産目録や収支予定表の作成を専門員が行うケースも増えました。支援困難ケースについては、課内で情報共有しながら、課題解決に向けて話し合いも行いました。多額の負債や複雑な親族関係など、利用者の課題が重篤化しており、複数の機関と連携して取り組む事案が増えました。

<契約件数等の推移>

| 年度 | 相談件数 | 新規契約件数 | 利用者数 |
|----|--------|--------|------|
| R4 | 2,283件 | 48件 | 205人 |
| R5 | 2,262件 | 29件 | 198人 |
| R6 | 2,599件 | 20件 | 178人 |

② 成年後見推進事業

法人後見については、令和7年3月末現在30件を受任しています。令和6年度は被後見人等の死亡による終了件数が2件あり、関係機関の協力も得ながら親族に引継ぎを行いました。新規受任4件のうち2件は、受任者調整会議で法人後見の受任が妥当と判断された

市長申立のケースでした。月1回の課内会議でケース検討を行い、支援方針の確認と情報共有を行いました。法人後見運営委員会では、新規ケースの支援のあり方や課題について活発な意見が交わされ、委員の助言を受け適正化を図りました。また、相続の法律課題解決のため、法人予算の弁護士相談費用を活用したケースが1件ありました。

(中核機関の運営については、重点事業①と同じ)

<法人後見受任件数>

(単位：件)

| 年度 | 後見 | 保佐 | 補助 | 保佐監督人 | 合計 |
|----|----|----|----|-------|----|
| R4 | 11 | 8 | 4 | 0 | 23 |
| R5 | 12 | 7 | 6 | 1 | 26 |
| R6 | 13 | 10 | 6 | 1 | 30 |

③ 生活福祉資金貸付事業（山形県社協委託事業）

生活福祉資金貸付は、一時的な家賃、公共料金の支払いに伴う緊急小口資金の貸付及び引越しに伴う転居費用が最も多く、次いで教育支援費・就学支度費となっています。季節の変動に合わせて転居する世帯が多く、転居関係の貸付けは今後も増加する傾向にあります。貸付後は民生委員等関係機関と連携を図りながら償還指導を行うとともに、滞納世帯に対してはたすけあい資金と同様に償還指導を行いました。

借受後の世帯の状況把握を行うことで継続的に関わりを持ちながら適切な対応や助言、必要に応じて関係機関とも連携し、生活の安定につながるよう支援しました。

<生活福祉資金貸付件数等>

| 年度 | 貸付件数 | 貸付金額 |
|----|------|-------------|
| R4 | 22件 | 24,548,000円 |
| R5 | 17件 | 19,986,000円 |
| R6 | 18件 | 7,603,000円 |

<生活福祉資金新規貸付状況>

(単位：件)

| 項目 | 鶴岡 | 藤島 | 羽黒 | 楡引 | 朝日 | 温海 | 合計 |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|
| 総合支援資金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育支援費、就学支度費 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 教育支援費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 就学支度費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 技能修得費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 療養費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 障がい者自動車購入費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 転居費 | 7 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 8 |
| 緊急小口資金 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 17 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 18 |

④ たすけあい資金貸付事業

令和 5 年度の貸付件数は少ないものの、例年 100 件前後を推移しており、令和 6 年度は 112 件となりました。国の施策による低所得世帯等への給付金の支給の関連もみられ、月ごとの申請数にも変動があります。一方、借受世帯の申請理由の内訳は例年同様、予定外の出費による生活費不足や生活保護申請から決定までをつなぐ費用としての申請が多い状況となっています。しかし、いずれも日常的な金銭管理を起因とする生活費不足が多いことから、状況によっては日常生活自立支援事業の利用や地域生活自立支援センター（くらしス）への相談につなぐなど、根本的な課題解決が図られるよう支援を行いました。

<たすけあい資金貸付件数等>

| 項目 | | 鶴岡 | 藤島 | 羽黒 | 櫛引 | 朝日 | 温海 | 合計 |
|-------|-------|-----------|---------|--------|---------|--------|---------|-----------|
| R4 年度 | 件数(件) | 85 | 5 | 3 | 1 | 1 | 8 | 103 |
| | 金額(円) | 2,323,000 | 130,000 | 85,000 | 20,000 | 20,000 | 172,000 | 2,750,000 |
| R5 年度 | 件数(件) | 54 | 4 | 2 | 5 | 0 | 10 | 75 |
| | 金額(円) | 1,452,000 | 120,000 | 40,000 | 110,000 | 0 | 230,000 | 1,952,000 |
| R6 年度 | 件数(件) | 89 | 6 | 4 | 3 | 1 | 9 | 112 |
| | 金額(円) | 2,394,000 | 110,000 | 80,000 | 50,000 | 20,000 | 160,000 | 2,814,000 |

<たすけあい資金新規貸付状況>

(単位:件)

| 項目 | 鶴岡 | 藤島 | 羽黒 | 櫛引 | 朝日 | 温海 | 合計 |
|------------|----|----|----|----|----|----|-----|
| 生活費 | 51 | 6 | 4 | 3 | 1 | 8 | 73 |
| 生活保護つなぎ資金 | 29 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29 |
| 治療費・療養費 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 入園・入学及び支度金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 住宅費 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 転居費 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| その他 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 合計 | 89 | 6 | 4 | 3 | 1 | 9 | 112 |

⑤ フードバンクの取組

フードバンクについては、コープフードバンクや地域住民の協力（フードドライブ）、個人や企業からの寄附などに支えられました。フードバンクの取組を行った企業や団体からは継続して寄附があり、緊急的に食料支援が必要な方へ支援を行うことができました。一方、生活保護受給者の利用が全体の 4 割を超え、中には複数回利用につながっている方もいます。必要に応じて、関係機関と連携しながら困窮状態の把握や家計管理について面談の機会を設けるなど、世帯状況の改善につながるよう支援しました。生活保護の決定や貸付決定までのつなぎとして、また貸付を受けずに次の収入が入るまでのつなぎとしてフードバンクが活用されています。

<フードバンク 食品提供件数>

(単位：件)

| 年度 | 鶴岡 | 藤島 | 羽黒 | 櫛引 | 朝日 | 温海 | 合計 |
|----|-----|----|----|----|----|----|-----|
| R4 | 223 | 4 | 6 | 3 | 1 | 13 | 250 |
| R5 | 162 | 8 | 10 | 18 | 5 | 9 | 212 |
| R6 | 197 | 4 | 3 | 11 | 3 | 8 | 226 |

⑥ 緊急小口資金拡充支援資金貸付事業（市独自）

基本的には、貸付要件である緊急小口資金特例貸付（実施主体：山形県社協）の動向に合わせ、定期的な償還事務のほか、償還免除や償還猶予申請手続き及び滞納世帯への償還指導等、状況によっては鶴岡地域生活自立支援センター（くらしス）等とも連携しながらフォローアップ支援を行いました。

特に、令和6年12月は借受世帯の多くが償還期限を迎えることから、一括返済の対応や病気療養等による償還猶予申請を行う世帯が多くみられました。

3. 相談支援事業（市委託事業）

(1) 地域包括支援センター

◆ 総括

高齢者等ができる限り住み慣れた地域で、その人らしく安心して暮らし続けることができるよう、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の三職種が権利擁護や介護サービス、認知症に関わる支援等の多様な相談支援に対応し、関係機関や多職種等とも連携しながら、総合相談の拠点として機能の充実に努めました。

また、生活支援コーディネーターは、地域における高齢者の生活支援や介護予防の基盤整備に向けて、その調整役を担いながら、地域住民、関係機関等と協働のもと、地域ケア会議等を開催し、地域の支え合いの仕組みづくりを推進しました。

<地域包括支援センター職員配置>

(単位：人)

| | 担当地域 | 65歳以上 人口 | 保健師 | 主任 ケアマネ | 社会 福祉士 | 生活支援 コーディネーター |
|---------------------|---------------------|-------------|-----|------------|-----------|------------------|
| 地域包括支援センター かたりあい | 第六学区・大泉・上郷・三瀬・由良・小堅 | 6,852 | 1 | 1 | 2 | 1 |
| 地域包括支援センター なえづ | 第二学区・斎・黄金 | 3,565 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 地域包括支援センター くしびき | 櫛引 | 2,605 | 1 | 1 | 1 | 1 |

※65歳以上の人口は令和6年3月末現在

◆ 重点目標に対する成果・達成

複合的な課題に対し分野を超えて包括的に支援することができるよう、地域ケア会議等を開催し、関係機関等と連携を図りながら支援しました。また、県や市、関係機関等が主催する権利擁護等の各種研修会に参加し、情報共有等を行いながら支援の質の向上に努めました。

高齢者の自立支援に向けた適切なケアマネジメントを実施し、切れ目のない介護予防を継続できるよう、地域で取り組む通いの場づくりやフォローアップ等にも積極的に取り組み、地域の支え合いの仕組みづくりに努めました。

<相談件数>

(単位：人)

| 年度 | 相談件数 | 内新規 | 相談形態 | | | | 相談者 | |
|----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|--------|-------|
| | | | 訪問 | 来所 | 電話 | その他 | 本人・家族等 | その他 |
| R4 | 6,918 | 431 | 2,018 | 594 | 3,676 | 630 | 5,515 | 4,655 |
| R5 | 6,917 | 451 | 1,972 | 555 | 3,759 | 631 | 5,750 | 4,672 |
| R6 | 7,358 | 480 | 2,135 | 539 | 4,074 | 610 | 5,770 | 5,186 |

<相談内容> ※重複含む。

(単位：人)

| 年度 | 実態把握 | 権利擁護関係 | 介護関係 | 疾病・障がい関係 | 包括的 | 在宅福祉サービス | 医療関係 | 経済的問題 | 事業対象者・要支援者 | その他 | 介護予防ケアマネジメント | 指定予防支援 |
|----|------|--------|-------|----------|-----|----------|------|-------|------------|-----|--------------|--------|
| R4 | 409 | 659 | 2,616 | 1,077 | 916 | 523 | 605 | 166 | 456 | 276 | 541 | 446 |
| R5 | 404 | 773 | 3,065 | 1,412 | 813 | 412 | 652 | 283 | 437 | 258 | 563 | 244 |
| R6 | 377 | 594 | 3,592 | 1,618 | 718 | 412 | 779 | 299 | 435 | 302 | 468 | 264 |

※事業対象者・要支援者：平成 29 年度開始した総合事業のうち給付実績を伴わない相談

※介護予防ケアマネジメント：平成 29 年度開始した総合事業のうち給付実績を伴う相談

※指定予防支援：要支援 1 又は要支援 2 の認定者の介護予防・生活支援サービス事業以外の給付実績を伴う相談

<研修参加状況>

| 内 訳 | 参加人数 | 研 修 内 容 | |
|------|-------|------------------|------|
| 内部研修 | 94 人 | 法令遵守・接遇について | 13 人 |
| | | 新採職員・階層別・管理職研修 | 11 人 |
| | | B C P 研修（災害・感染症） | 33 人 |
| | | 高齢者虐待防止・身体拘束研修 | 21 人 |
| | | ハラスメント研修 | 1 人 |
| | | メンタルヘルス研修 | 8 人 |
| | | A E D 研修 | 4 人 |
| | | リスクマネジメント研修 | 3 人 |
| 外部研修 | 210 人 | 新任職員研修 | 6 人 |
| | | 地域包括支援センター業務研修 | 58 人 |
| | | 地域ケア関係研修 | 18 人 |

| | | | |
|--------|------|-------------|-----|
| | | 医療・感染症予防研修 | 7人 |
| | | 認知症研修 | 15人 |
| | | 権利擁護研修 | 38人 |
| | | 介護予防研修 | 8人 |
| | | ケアマネジメント研修 | 12人 |
| | | 多職種との意見交換会 | 18人 |
| | | 認知症カフェ研修 | 5人 |
| | | 伴奏型支援研修 | 8人 |
| | | 再犯防止推進研修 | 8人 |
| | | 県内相談機関初任者研修 | 6人 |
| | | その他（報酬改定） | 3人 |
| 合計（延べ） | 304人 | | |

◆ 事業の実施結果

○ 地域ケアネットワーク体制の推進

地域の関係組織や地域ケア推進担当者と協働で地域ケアネットワーク会議等を開催し、身近な地域で支え合える体制整備の重要性について、地域住民の方々が理解を深める機会としました。

高齢者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう、サロンや百歳体操などの介護予防や日常生活が活性化する通いの場づくりを促進し、また、認知症カフェや認知症サポーター養成講座などの開催を通して、地域住民や関係機関と協働しながら支え合いの地域づくりを推進しました。

<地域包括ケアシステム構築のための事業、会議の回数>

| 年度 | 介護予防普及啓発事業 | 地域ケア連携等の会議 | 事例検討会議 |
|----|------------|------------|--------|
| R4 | 470 | 248 | 23 |
| R5 | 463 | 275 | 25 |
| R6 | 513 | 324 | 19 |

※介護予防普及啓発事業：地区サロン、百歳体操、介護予防講座、住民研修会等

※地域ケア連携等の会議：ケア推進担当者会議、ネットワーク会議、民協定例会等

○ 地域包括支援センターの機能強化

複合的な課題に対応するため、民生委員・児童委員との情報交換会の開催や、地域の保健・医療・福祉などの多職種と連携を図り、支援体制の構築に努めました。ニーズが複雑化した支援困難な事例については、地域ケア会議の開催や重層的支援体制整備事業移行準備事業における多機関協働事業と連携するなど課題解決に向けた支援を図りました。

また、各種相談に対応できるよう、相談技術やケアマネジメント技術の向上のための研修等に積極的に参加し、相談支援の資質向上に努めました。

□ 地域包括支援センターかたりあい

複合的な課題に対応するため、地域住民や関係機関と連携して地域の特性に応じた支援合いの仕組みづくりを推進し、また認知症サポーター養成講座等を開催し、認知症等の早期発見や地域における普及啓発を通じて、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるような支援体制の構築に努めました。

□ 地域包括支援センターなえづ

複合的な課題に対応するため、関係機関と情報共有や連携を図り、総合相談の拠点としての機能強化を図り、地域ケアネットワーク会議等により、地域住民の方々へ地域包括支援センターの周知を図りながら、潜在している要援護高齢者の把握に努め、適切な支援につなげられるように努めました。

□ 地域包括支援センターくしびき

高齢者の様々な相談にワンストップで応じ、複合的な課題を抱える方やその世帯に対し、包括的に関わる総合相談の拠点としての機能の充実を図りました。また、地域ケアネットワーク会議等を開催し地域課題の把握と支援体制の構築に努め、通所型サービスB⁹「猫の手」に榎引西小学校スマイル隊が訪問する機会を設け、世代間交流を図りました。

(2) 鶴岡市障害者相談支援センター

◆ 総括

障がい者が地域で安心して自立した生活を送ることができるよう、障がい者の総合相談窓口として関係機関との連携を密に図り、多方面からの意見をいただきながら支援に努めました。基幹相談支援センターとして多岐にわたる相談を受け、指定相談支援事業所の担当調整や困難事例への同行支援、個別支援会議への参画など後方支援を行い、また権利擁護・障害者虐待の相談などの窓口として、鶴岡市と連携を図り対応しました。

鶴岡市自立支援協議会で課題として挙げられている地域生活支援拠点の運用、精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム、企業や学校との連携について各部会で検討し、また、障がい者の災害時の避難については、鶴岡市障害者地域自立支援協議会運営委員会で検討しました。

高齢者、児童、保健・医療、教育、就労等に関するそれぞれの機関と連携してスムーズに支援できるよう、研修会、情報交換会等開催し、連携強化と人材育成に努めました。

⁹ 通所型サービスB：ボランティア主体（住民主体）で、通いの場を設け、体操や運動等の活動を行うサービスのこと。

◆ 重点目標に対する成果・達成

障がいの特性や地域生活課題等の多様化に対し、各専門機関と連携し相談対応を行い、特に児童に係る機関と連携する機会が多いことから、個別支援会議や情報交換会を通じて顔の見える関係づくりに努め検討会を行うなど、課題解決に向けた取組を図りました。

地域全体で障がい者の生活を支える体制の「地域生活支援拠点事業～つるおか安心ネット～」については、各法人や事業所また鶴岡地区障害者通所施設協議会などで説明会を行い、周知を図りました。

◆ 事業の実施結果

○ 総合的・専門的な相談支援

地域の障がい者が安心して生活が送れるよう、障がいのある人やその家族の抱える課題について、各関係機関と情報交換会などを通してネットワークの構築を図りました。複合的な課題を抱える世帯については、個別支援会議により関係機関と連携し、事例検討を通して相談支援専門員の質の向上を図り、更に、基幹相談支援として支援困難ケースへ積極的に関わりを持ち後方支援を行いました。

障がい者の災害時の避難の課題について、障害者地域自立支援協議会運営委員会でいただいた意見を、災害時個別避難計画へ生かされるよう関係機関へ情報をつなぎました。

○ 相談しやすい体制と切れ目ない支援の体制づくり

相談しやすい体制づくりと切れ目ない支援の一環として、障がい児の家族が抱える不安に対し、大人になってからの生活が思い描けるよう、関係機関の支援について研修会を開催し、また、教育関係者の研修会では学校以外での生活や連携の大切さについて周知しました。

<相談状況>

(単位：件)

| 年度 | 相談件数(延べ人数) | | | うち新規件数 | | |
|----|------------|-------|-------|--------|-----|-----|
| | 計 | 障害者 | 障害児 | 計 | 障害者 | 障害児 |
| R4 | 10,557 | 9,520 | 1,037 | 132 | 102 | 30 |
| R5 | 10,786 | 9,858 | 928 | 128 | 90 | 38 |
| R6 | 10,223 | 9,250 | 973 | 115 | 81 | 34 |

<相談方法>

(単位：件)

| 年度 | 計 | 訪問 | 来所 | 同行 | 電話 | メール | 個別支援会議 | 関係機関調整 | その他 |
|----|--------|-------|-----|-----|-------|-----|--------|--------|-----|
| R4 | 14,255 | 2,030 | 555 | 247 | 3,093 | 112 | 31 | 7,557 | 630 |
| R5 | 14,208 | 2,306 | 515 | 341 | 3,305 | 155 | 17 | 7,531 | 38 |
| R6 | 13,990 | 2,263 | 558 | 326 | 3,451 | 88 | 14 | 7,247 | 43 |

<相談内容の内訳>

(単位：件)

| 年度 | 計 | 福祉サービス利用 | 障がい・病状理解 | 健康・医療 | 不安解消 情緒安定 | 保育・教育 | 家族・人間関係 |
|----|--------|----------|----------|-------|--------------|-------|---------|
| R4 | 12,070 | 7,134 | 602 | 1,287 | 864 | 99 | 486 |
| R5 | 12,108 | 7,652 | 482 | 1,247 | 568 | 133 | 530 |
| R6 | 10,415 | 7,620 | 380 | 914 | 289 | 88 | 300 |

| 年度 | 家計・経済 | 生活技術 | 就労 | 社会参加 | 権利擁護 | その他 |
|----|-------|------|-----|------|------|-----|
| R4 | 390 | 224 | 302 | 178 | 149 | 355 |
| R5 | 379 | 243 | 241 | 248 | 157 | 228 |
| R6 | 247 | 91 | 194 | 78 | 76 | 138 |

○ 障がいのある人の充実した生活への支援

◇ 障がい者理解啓発・障害者アート展の開催

令和7年1月に虐待防止研修会を開催し、地域の民生委員・児童委員や関係機関へ虐待防止をテーマに障がい者を取り巻く現状などの理解啓発につなげました。

令和6年度で6回目になる「障害者アート展」については、「つなぐ・つながる」をテーマに開催し、障がいがあってもなくてもつながりあうことができること、地域でアート活動をする団体とつながりを持ちこの展示会が開催されていることなど、人・物のつながりの大切さを感じ取れる展示会となりました。

<実施内容>

| 開催月日 | イベント名 | 参加人数 | 内 容 |
|----------------------|-------------|---------------|---|
| 10月4日 ～ 10月14日 | 障害者 アート展 | 来場者 1,057名 | 開催場所：鶴岡アートフォーラム 名称：「つるおかひょうげんの花 2024 つなぐ・つながる ～鶴岡の障害のある人の表現活動を紹介する展示会～」 内容： ①「つるおかひょうげんの花」 公募した鶴岡在住の障がいがある方の作品を展示 出品数：155点（個人・共同） ②きざしとまなざし公募展・企画展 2024 ③とあるアトリエ（仮）プロジェクト作品 ④みんなのソライ オープンアトリエ ⑤アートグッズの販売 ⑥YouTube 配信 |

◇ 日中活動・余暇支援

日中活動としての軽運動については、にこ♥ふるで月1回程度実施し、利用が定着した事業所もあり、利用者の運動習慣の一つとなりました。

◇ 聴覚障がい者への支援

聴覚障がい者が発熱時も安心して手話通訳を受け診察ができるように、スマートフォンやタブレット端末のビデオ通話機能を利用した遠隔手話通訳サービスを希望する聴覚障がい者より事前登録をしていただき、必要時に利用できる体制を整えました。

マスク着用で聴覚障がい者としては口形が見えずコミュニケーションが取りにくい状況があるため、透明マスクを使用するなど情報保障のため意思疎通支援事業を進めました。

聴覚障がい者が手話で自由に話ができる場として、「手話でおしゃべりお茶会」を開催し、聴覚障がい者や手話サークル、手話奉仕員養成講座の受講生等手話学習者へ周知し交流を図りました。手話奉仕員養成講座は聴覚障がい者の社会生活が活発となるよう、基礎編を開催し人材の育成を行いました。

<手話通訳設置事業相談対応状況>

| 年度 | 手話通訳 | 講師依頼 | 個別相談等 | 手話通訳者派遣調整 |
|----|------|------|-------|-----------|
| R4 | 61件 | 13回 | 92件 | 265件 |
| R5 | 74件 | 11回 | 109件 | 294件 |
| R6 | 82件 | 14回 | 109件 | 283件 |

<手話奉仕員養成講座開催状況>

| 年度 | 内容 | 回数 | 修了者数 | 備考 |
|----|-----|-----|------|----|
| R4 | 基礎編 | 22回 | 3人 | |
| R5 | 入門編 | 22回 | — | |
| R6 | 基礎編 | 23回 | 11人 | |

○ 指定相談支援事業

◇ サービス等利用計画作成

サービス等利用計画作成を通して、障がい者本人やその家族がサービスを利用しながら地域で安心して生活ができるように支援し、複合的な課題を抱える方については、関係機関とも連携を図りながら支援し、また、研修や事例検討会により相談支援の向上を図りました。

<サービス等利用計画延べ作成数> (単位：件)

| 年度 | 新規（実人数） | 継続 |
|----|---------|-------|
| R4 | 78 | 1,323 |
| R5 | 128 | 1,327 |
| R6 | 69 | 1,301 |

○ 障害者地域自立支援協議会

障がいのある方が地域で安心して暮らすことができるよう、各専門部会で活動に取り組み、相談支援部会では、地域課題に特化して検討する会議や研修を行いました。保健・医療・福祉・教育・就労等の関係機関と顔の見える関係づくりへ取り組み、地域課題については災害時の避難や、障害に特化した訪問介護事業所の不足など、新たな課題も抽出されました。また、基幹相談支援への教育機関からの依頼により、連携と切れ目のない支援のための研修へ協力しました。

<各種会議開催状況> (単位：回)

| 年度 | 運営委員会 | 部会長会議 | 部会及び部会 事務局会議、 研修 | 地域移行 定着委員会 | 個別支援 会議 | 事務局会議 (全体) |
|----|-------|-------|------------------------|---------------|------------|---------------|
| R4 | 1 | — | 65 | 1 | 31 | 4 |
| R5 | 2 | — | 62 | 1 | 16 | 3 |
| R6 | 2 | — | 57 | 4 | 12 | 2 |

◇ 個別支援会議

基幹相談支援として、複雑化、複合化した個別事例の課題について関係機関と会議、協働していくことで解決を図り、相談支援事業所が支援困難なケースについて後方支援を行い、対応しました。

◇ 専門部会

3つの専門部会と1つの企画班で共同して課題別情報交換会・研修会の開催、事例検討会等に取り組み、関係機関等と困難ケースや支援における課題の解決への検討を通し、他機関とつながることで障がいのある方を支える資源を共有する機会となりました。

<各部会取組状況>

| 部 会 名 | 内 容 |
|--------|--|
| 相談支援部会 | 質の高い切れ目ない相談支援の提供と、本人やご家族が安心して地域生活ができるネットワーク構築を目指す活動 ① 相談支援専門員の人材育成 ② 他分野他領域との連携強化 ③ 地域生活を支えるための体制整備 |

| | |
|--------|--|
| | <p>※事務局会 11回 部会・研修会 10回 グループスーパービジョン 2回</p> |
| しごと部会 | <p>障がいのある方の就労に関わる支援機関や事業所等と連携を図りながら、就労支援の現状と課題について共有し、就労継続支援事業所間のネットワーク強化とスキルアップ、工賃水準の向上、障害者雇用を促進するための制度周知や企業の理解啓発を進めることを目的とした活動</p> <p><しごと部会の活動報告></p> <p>① 就労系事業所間のネットワーク強化 ② 事業所運営改善に向けた個別コンサルティングの実施 ③ 事業所製品販売、業務受託機会の確保</p> <p><プロジェクトチームの活動報告></p> <p>① 学校（教育分野）と企業とのつながり強化、理解促進研修</p> <p>※事務局会議 2回 部会研修会等 8回</p> |
| 発達障害部会 | <p>地域課題に対する具体的な行動計画に基づきライフステージに応じた多分野多職種との連携を推進し、課題解決に向けた活動</p> <p>① 切れ目ない相談支援体制の強化 ② 障がい理解の啓発活動 ③ 専門的人材育成 ④ 成人期のサポート</p> <p>※事務局会議 4回、部会 3回、ペアトレ連続講座 計 11回、フォローアップ講座 1回、サポートファイル関係機関会議 2回</p> |
| 広報企画班 | <p>鶴岡市障害者地域自立支援協議会の活動の周知と各種サービスや支援、相談窓口等の情報発信の仕組みづくりと整備を図るほか、協議会各部会と連動し関係機関とのネットワーク構築のための活動</p> <p>① 自立支援協議会の活動内容の周知 ② 情報発信の仕組みづくりと整備 ③ 関係機関とのネットワーク構築と市民への理解啓発 ④ 社会資源の把握</p> <p>※広報企画班会議 2回、アート展担当者会議 4回（振り返り会議も含む。）</p> |

◇ 運営委員会

運営委員会を開催し、災害時の障がい者の避難所等についての課題提起や、障害者差別解消・合理的配慮の促進や、対応への取組について話し合いを行いました。

○ 権利擁護・虐待の防止

◇ 障がい者虐待防止の取組

障がい者の虐待に関する相談窓口として、鶴岡市と共に「障害者虐待防止センター」を開設し対応しました。また、地域で障がい者の権利や尊厳が脅かされることのないように、虐待防止における地域の理解を深めることを目的に研修会を開催しました。

日 時：令和7年1月15日（水）

対 象：各自治組織関係者、民生児童・児童委員、手をつなぐ親の会、サービス事業所等

内 容：講演「家庭における障害者虐待の概要、防止のための地域の役割」

講 師：一般社団法人 山形県社会福祉士会 業務執行理事 柴田 邦昭 氏

◇ 広報委員会

鶴岡市障害者地域自立支援協議会が重点的に取り組んでいる関係機関との情報交換会や、各部会の活動の様子をより多くの方々へ周知し理解していただくため8月と3月に「自立支援協議会だより」No.31・No.32を発行しました。

「子ども版障害福祉のしおり」と「児童発達支援・放課後等デイサービスガイドブック」の更新を行い、関係機関等へのメール配信、鶴岡市のホームページへの掲載を行うとともに、市内小中学校や特別支援学校、放課後等デイサービス事業所や医療機関等へ配布し、また、「日中活動系障害福祉サービス事業所ガイドブック」の更新を行いました。

(3) 鶴岡地域生活自立支援センター（生活困窮者支援事業）

◆ 総括

生活困窮あるいは社会的に孤立している状況にある相談者に対して、相談者が抱える課題と一緒に向き合い、自己選択、自己決定を基本とした相談支援を行いました。

信頼関係に基づく援助関係の構築、その人の思いや事情を尊重した支援の展開を心掛け、相談者が社会とのつながりを構築できるよう関係機関との連携を図りながら支援を実施しました。

◆ 重点目標に対する成果・達成

相談者やその世帯が抱える課題について適切にアセスメントを行い、相談者を主体とした自立支援計画に基づき各種支援に繋げ、本人の希望する自立に向けて支援を行いました。

相談内容が債務に関わることや法的支援を要する場合も多く、専門機関及び福祉関係機関との連携を随時図りながら支援を行いました。

就労に向けた準備が必要な方に対しては、就労準備支援事業「したくホーム」での就労支援・作業支援・社会人スキル・就労体験を通じ、本人の状態に応じた支援を行いました。就労体験の企業開拓も積極的に行い、就労定着に繋げることができました。

自立支援事業（くらしステーション）・就労準備事業（したくホーム）の事業内容・相談窓口の周知活動として、一般市民に参加を呼びかけセミナーを開催しました。

□ 自立相談支援事業（くらしステーション 鶴岡市・庄内総合支庁委託）

◆ 事業の実施結果

○ 伴走型支援を中心とした相談支援

生活困窮の状況にある相談者が抱える課題に対し、アウトリーチ・断らない相談支援を心掛け、課題解決のみならず、相談者が抱える孤立、孤独の状況を理解して伴走型支援を行いました。相談者に応じて必要な地域関係組織や各相談支援機関と連携・協働しながら相談支援を実施しました。

○ 生活困窮者支援を通じた地域づくり

地域社会とのつながりの再構築のため、企業、民生委員・児童委員や自治組織、関係機関などへの事業周知や協働に努めました。企業よりご理解いただき、就労体験を通し、長い期間就労していない方などが就職につながるなど支援にご協力いただきました。

○ 相談支援のスキルアップのための研修

複雑化・複合化している生活困窮の課題を抱える方への相談に対し、ニーズを的確に捉え、課題に対して適切な支援ができるようスキルアップするための研修会等へ参加しました。

<相談件数等 鶴岡市・三川町> (単位：件)

| 年度 | 新規相談件数 | 延べ相談件数 | プラン作成 | 就労者数 |
|----|--------|--------|-------|------|
| R4 | 187 | 2,359 | 16 | 23 |
| R5 | 178 | 1,934 | 21 | 26 |
| R6 | 156 | 1,678 | 24 | 14 |

<相談内容 鶴岡市・三川町> (単位：件)

| 年度 | 相談内容内訳 | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 |
|----|-----------|-----|--------|--------|---------|----|---------|--------|------|-----------|-------|----------|----|----------|-----|----------------|-----|
| | 病気・障がい・健康 | 住まい | 収入・生活費 | 家賃・ローン | 税金・公共料金 | 債務 | 仕事探し・就職 | 地域との関係 | 家族関係 | ひきこもり・不登校 | DV・虐待 | 食べるものがない | 介護 | 教育資金・子育て | 依存症 | その他（ゴミ屋敷・ペット舎） | |
| R4 | 8 | 23 | 93 | 3 | 1 | 7 | 23 | 2 | 4 | 7 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 14 | 187 |
| R5 | 23 | 23 | 50 | 11 | 2 | 6 | 26 | 0 | 12 | 8 | 0 | 2 | 3 | 1 | 1 | 10 | 178 |
| R6 | 12 | 23 | 73 | 3 | 5 | 8 | 16 | 0 | 6 | 6 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 156 |

<会議・研修・事業周知活動等>

| 名称 | 目的 | 回数 | 参集、協力、配布等機関 |
|-------------------------------------|--------------------------------|----|---|
| 鶴岡市支援調整会議 | ・プランの確認、評価 ・就労準備支援事業利用決定、評価 | 11 | 福祉課・健康課・ハローワーク・市社協（地域福祉課・生活支援課） |
| 三川町支援調整会議 | ・支援ケースの確認 ・情報交換 | 2 | 庄内総合支庁地域保健福祉課・三川町健康福祉課・三川町社会福祉協議会・ハローワーク |
| 自立相談支援の事業説明会 | ・事業説明 ・関係組織との連携 | 7 | ・三川町お茶のみサロン ・一般企業他 ・くらしス×「スパイスセミナー」 |
| 庄内地域生活保護受給者等就労自立促進協議会（鶴岡・酒田公共職業安定所） | ・生活保護受給者等の就労支援 | 1 | 庄内管内各関係機関 |
| 生活困窮者自立支援制度人材養成研修 他 | ・研修（配信含） | 13 | 全国社会福祉協議会、山形県他 |

□ 就労準備支援事業（したくホーム 鶴岡市委託）

◆ 事業の実施結果

○ 就労準備支援プログラムの実施

就労による自立の支援を行うため、社会との関わりに不安を抱え、就労に適応する準備が整っていない方については、3つの自立（①日常生活自立、②社会生活自立、③就労自立）を目指し、本人の状況に応じたプログラムを提供し、基礎能力の形成と意欲の向上を図るとともに社会的孤立の解消に向けた支援を実施しました。

<支援件数等>

（単位：件）

| 年度 | 新規件数 | 終結件数 | 利用者数 | 就労者数 |
|----|------|------|------|------|
| R4 | 5 | 2 | 8 | 2 |
| R5 | 7 | 7 | 11 | 6 |
| R6 | 8 | 6 | 14 | 6 |

○ 社会資源とのネットワークの構築

利用者が就労に向けて意欲的な活動ができるよう、地域の総合的雇用サービス機関であるハローワーク等との連携を図り、また、利用者の状態により、必要に応じて医療機関への受診同行や情報提供等を行い、不安の解消や適切に支援ができるように努めました。

コンビニエンスストア・ホテル等に就労体験の受入れを依頼し、企業の理解・協力のもと、利用者の就労定着まで繋ぐなど自立への支援を行いました。

<令和6年度 就労準備支援事業のプログラム内容>

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|----|--------|----------------|--------|--------------|--------|
| 午前 | なりわい部会 | 調理実習 パソコン演習 | なりわい部会 | ボランティア 活動 | だだ集会 |
| 午後 | なりわい部会 | なりわい部会 | なりわい部会 | なりわい部会 | なりわい部会 |

※主な実施場所は鶴岡銀座商店街鶴岡ダダ3階

※個別に企業・事業所の協力による就労体験プログラム実施

<地域貢献活動>

銀座通り周辺の美化活動（ゴミ拾い、除草）・イベント準備活動

<プログラム>

- なりわい部会 : 工業ブラシ内職作業
- 調理実習 : 一人暮らしを想定した調理
調理を通して相談、助け合い等のコミュニケーション練習
- パソコン演習 : 個別のレベルに応じた文字入力や簡単なWord・Excel操作
- ボランティア活動 : 銀座通り、にこ♥ふる駐車場ゴミ拾い・旧マルタの清掃・体力づくり等
- だだ集会 : 自分の長所や短所、コミュニケーション練習、グループワーク、模擬面接、履歴書の書き方、社会人マナー、挨拶、みだしなみ等
- その他 : 面談での振り返り等

○ 職員研修の実施

就労準備支援事業従事者養成研修会等の研修会に参加し、他事業所との情報交換や知識や技術の向上に努めました。

4. 高齢者福祉事業

(1) 総括

介護保険の基本理念に基づき、「利用者の目指す生活、自分らしい生活」を送るための支援に努め、市民、利用者から信頼され選ばれる高齢者福祉サービスの提供に努めました。

新型コロナウイルス感染症について、令和5年度は1日も休業することなくサービス提供を行うことができましたが、令和6年度は、4月にデイサービスセンターとようらで5日間、8月にはデイサービスセンターおおやまで6日間の休業を余儀なくされました。

介護保険の利用状況を令和5年度と比較すると、通所介護で延べ利用者数1,825人の減、居宅介護支援は延べケアプラン作成数264件の増、訪問介護は延べ訪問回数2,750回の減となりました。特に通所介護の延べ利用者数については、一般型では1,075人の増でしたが、認知症対応型が2,697人の減となりました。認知症対応型の減については、デイサービスセンターとようらがデイサービスセンターはちもりと統合し、認知症対応型が一般型へ移行したことが要因の一つです。なお、全体としては利用者数が減少傾向にあります。一方、通所型サービスA¹⁰事業では、事務局で実施している、はつらつ元気まちトレの新規依頼が徐々に増加し、延べ利用者数が令和5年度比1.5倍近い増の3,370人となりました。

事業展開については、令和7年度に向けて居宅介護支援センター愛寿園を居宅介護支援センターとようらと統合するなど、引き続き事業の見直しを行いました。

「第三期事業経営計画」の取組については、計画4年目として、推進作業班メンバーによる全体会議を2回、各班による会議を随時開催し、各推進作業班を中心に計画の取組を進めました。

¹⁰ 通所型サービスA：高齢者が自宅での生活を続けられるよう運動やレクリエーションに取り組み、身体機能の維持・向上を図るサービスのこと。

(2) 重点事業

①「第三期 事業経営計画」の推進

4年目を迎えた第三期事業経営計画については、中間年での検証を基に計画達成に向けた取組を進めながら、推進作業班ごとに次期計画を見据えた課題の整理などを行いました。

| 基本的な視点 | 重点課題に対する令和6年度の主な取組 |
|------------------|--|
| I. 信頼性の高いサービスの提供 | (1) 人権を尊重した良質なサービスの提供 <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止会議及び身体拘束適正化に関する取組について、7月に合同会議、12月に合同研修会を開催し、利用者の権利擁護に取り組みました。 ・令和5年度に実施したサービスに関するアンケート調査の結果による改善状況について、施設ごとに取りまとめを行いました。 ・10/15と11/29の2回、職員厚生課主催でANAブルーアンバサダーによる接遇研修を実施、正職員、契約職員合わせて76名が参加しました。 |
| | (2) 安全・安心なサービス提供ができる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて災害時に事業が継続できるよう事業継続計画（BCP）の見直しを行うとともに、新型コロナウイルス感染症も含めた感染症発生時における事業継続計画（BCP）を作成しました。 ・感染症対策の強化については、令和5年度に引き続き全体会議を年2回開催、各事業所では年4回の感染症対策委員会を開催し、感染予防に取り組みました。 |
| II. 地域に開かれた施設づくり | (3) 部門間の連携による地域における公益的な取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は取組なし (4) 信頼を得るための積極的な情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・総務課主催でグラフィックデザインツールCanvaの研修会を9月と10月に2回、また、情報発信力研修を11月と12月の2回開催、ホームページ等の有効活用を図りながら、各施設の特色や事業の様子、魅力を情報発信する手法について、職員の理解を深めました。 |
| III. 人財育成の推進 | (5) 職位に応じた研修体系の確立 (6) 次世代を担うリーダーの育成 |

| | |
|-----------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に引き続き職員厚生課主催による階層別研修（WEB研修）を実施、法人全体で302名受講しました。 ・OJT¹¹研修の実施にあたり、職種を絞って様式を作成し指導・評価を試行、令和7年度からの本格実施に向けて準備を進めました。 |
| IV. 将来性・継続性を見通した事業の展開 | <p>(7) 社会情勢の変化を見据えた事業展開の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営基盤の強化に向けたプロジェクト会議を中心に、引き続き事業の見直しについて検討を行いました。 <p>(8) 適正かつ効率的な経営管理の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業経営会議や施設長会議で事業分析を実施し、施設経営について検討を行いました。 |

② 利用者の権利擁護の取組

利用者に関わる職員全員が倫理観を高めるよう、虐待防止研修や身体拘束適正化研修、接遇研修などを行い、利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

③ リスクマネジメント¹²の推進

介護事故のリスク把握と組織的なリスク管理、利用者の安心・安全を確保するため施設ごととリスクマネジメントに取り組むとともに、リスクマネジャー養成講座を2名が受講し、組織全体のリスク管理の意識付けと事故防止の徹底に努めました。

◆自動車事故報告

令和6年度の事故件数は60件で令和5年度比12件増でした。特に送迎車両（ハイエース）の事故が20件と多く、20件のうち10件は後方不注視が原因でした。施設内や訪問先での石垣や塀などへの接触による事故は35件、令和5年度比2件増でした。

運転業務の事故防止を図るため、11月に社協全部署を対象とした「安全運転研修会」を開催、令和5年度下半期及び令和6年度上半期の事故発生状況を報告し注意喚起を促すとともに、鶴岡警察署交通課職員を講師に迎え、運転者の安全運転義務等について研修を行いました。シルバー人材センターから派遣されている運転手も含め、46名の参加で実施しました。

¹¹ OJT：On-the-Job Training（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）の略称で、部下や後輩に対して、上司や先輩が指導役となり、実務を通して知識やスキルを身に付けてもらう人材育成手法のこと。

¹² リスクマネジメント：事故の原因や要因を特定し、分析することによって事故などの回避または低減を図ること。

<自動車事故件数>

(単位:件)

| 年度 | 衝突 追突 | 接触 | 脱輪 | 破損 (車輛・物) | 人身 事故 | 交通 違反 | 不明 その他 | 合計 |
|----|----------|----|----|--------------|----------|----------|-----------|----|
| R4 | 4 | 33 | 1 | 10 | 0 | 0 | 10 | 58 |
| R5 | 3 | 33 | 0 | 2 | 0 | 1 | 9 | 48 |
| R6 | 7 | 35 | 0 | 0 | 0 | 1 | 17 | 60 |

◆介護事故報告

令和6年度の事故件数は163件で、令和5年度比57件減となりました。特に服薬関係について、令和5年度は49件発生しましたが、令和6年度は35件で14件の減となりました。転倒による骨折やひびなどの重大事故は令和5年度より5件減の7件でした。

事故については、職員一人ひとりの意識の向上に向け「気づき改善シート」(事故が起きる前に気づいた事を書き出すシート)を活用し、重大事故とならないように努めました。

<事故件数>

(単位:件)

| 年度 | 骨折・ひび | 服薬関係 | その他のケガ等 擦過傷・アザ等 | 身体以外 連絡忘れ、破損 | 合計 |
|----|-------|------|--------------------|-----------------|-----|
| R4 | 11 | 39 | 20 | 97 | 167 |
| R5 | 12 | 49 | 46 | 113 | 220 |
| R6 | 7 | 35 | 23 | 98 | 163 |

④ 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症や食中毒などの感染症に対する理解と意識を深めるため、感染症対策委員会を中心に研修や訓練の実施、マニュアルの確認などを行うとともに、新型コロナウイルス感染症も含めた感染症発生時における事業継続計画(BCP)を作成しました。

⑤ 災害時の地域と連携した対応

新型コロナウイルス感染症の感染状況に留意しつつ、グループホームはちもりでは地域支援員の参加による夜間想定避難訓練、また、高齢者福祉センターおおやまでは近隣の避難協力員と共に防災訓練や避難訓練、炊き出し訓練などを実施しました。

⑥ 個別機能訓練の充実

事業推進課に理学療法士を配置、各事業所の日々の機能訓練の実施や書類作成についてフォローすることで担当職員のスキルアップを図るとともに、個別機能訓練メニューの充実に取り組みました。

また、科学的介護情報システム（L I F E）¹³の導入について、先行していたデイサービスセンターなえづとデイサービスセンターふれあいに続き、令和 6 年度はデイサービスセンターとようらとデイサービスセンターくしびきでも開始しました。

⑦ 経営的視点を持った施設運営

事業経営会議や施設長会議などで各事業の経営分析を行い、経営状況を把握しながら事業展開を図り、居宅介護支援事業所の統合など、引き続き事業の見直しを行いました。

⑧ 業務改善への取組

介護職員の人財確保や離職防止、職員が働きやすい環境を整えるため、居宅介護支援事業では、外出時にもサービス調整が可能になるツールとしてノートパソコンの導入について検討、各事業所での試用を実施しました。また、通所介護事業では、事業長や生活相談員の業務の平準化、統一化に取り組みました。

⑨ 地域交流・地域貢献の推進

これまで各施設で行ってきた環境美化活動や専門職による出前講座、サロンの開催など、地域交流・地域貢献の充実を図りながらコロナ禍以前のように取り組みました。

(3) 高齢者福祉関連事業

① 通所介護事業

利用者本人が持つ力や意欲を引き出せるような支援に努め、さらに、理学療法士・看護師等の専門職による個別機能訓練に力を入れ、利用者の心身機能の維持又は向上に努めました。

認知症対応型通所介護事業については、地域密着型の施設として 6 か月に一度開催する運営推進会議¹⁴について、施設の状況報告のみならず、地域住民や関係機関との意見交換を行いながら地域に開かれた施設を目指しました。

通所型サービス A 事業については、はつらつ元気まちトレの利用者数の増加に伴い、火曜日の午前中に 1 単位追加しました。デイサービスセンターとようら、温海デイサービスセンター愛寿園についても、利用者の身体状況に応じた運動・レクリエーションなどを行い、生活機能の維持又は向上を目指しました。

新型コロナウイルス感染症について、2 つの事業所で休業せざるをえない状況（とようら 5 日、おおやま 6 日）となり、利用率、事業収支に影響がありました。

¹³ 科学的介護情報システム（L I F E）：Long-term care Information system For Evidence の頭文字をとった言葉で、データの提供とフィードバックの活用によって、P D C A サイクルの推進とケアの質の向上を図ることを目的とした情報システムのこと。

¹⁴ 運営推進会議：定員 18 名以下の小規模型通所介護事業所において、利用者や利用者の家族、地域住民等をメンバーとした会議を開催し、活動状況の報告等を行う会議。

<通所介護事業実績> (暫定¹⁵・自費を除く)

| 年度 | 一般 | 認知症 | 総合事業 | | 合計 | 平均 利用率 |
|----|---------|--------|--------|--------|---------|-----------|
| | | | サービスA | 従前相当 | | |
| R4 | 42,552人 | 7,346人 | 1,675人 | 3,891人 | 55,464人 | 64.4% |
| R5 | 42,946人 | 7,538人 | 2,275人 | 4,098人 | 56,857人 | 71.5% |
| R6 | 44,021人 | 4,841人 | 3,370人 | 3,895人 | 56,127人 | 70.4% |

② 訪問介護事業

利用者が住み慣れた地域の中で、自分らしい生活の楽しみを見つけながら在宅生活を維持できるよう、関係機関との連携のもと、きめ細やかなサービス提供に努めました。また、計画的に各種研修を受講することで、職員のスキルアップを図り、専門性の高い訪問介護事業所を目指しました。

<訪問介護事業実績>

| 年度 | 項目 | 一般 | | | 総合事業(従前相当) | | 合計 |
|----|-------|--------|-------|-------|------------|-------|--------|
| | | 身体介護 | 身体生活 | 生活援助 | 身体含む | 生活のみ | |
| R4 | 回数(回) | 18,773 | 7,028 | 9,798 | 2,397 | 5,495 | 43,491 |
| | 割合(%) | 43.2 | 16.2 | 22.5 | 5.5 | 12.6 | 100.0 |
| R5 | 回数(回) | 19,469 | 7,439 | 7,974 | 2,521 | 5,254 | 42,657 |
| | 割合(%) | 45.7 | 17.4 | 18.7 | 5.9 | 12.3 | 100.0 |
| R6 | 回数(回) | 18,659 | 6,082 | 7,531 | 2,143 | 5,492 | 39,907 |
| | 割合(%) | 46.8 | 15.2 | 18.9 | 5.3 | 13.8 | 100.0 |

<会員制訪問介護事業実績(いきいきヘルパー)>

| 年度 | 延べ利用人数 | 利用人数(実人数) | 延べ利用時間 |
|----|--------|-----------|--------|
| R4 | 0人 | 0人 | 0時間 |
| R5 | 0人 | 0人 | 0時間 |
| R6 | 0人 | 0人 | 0時間 |

③ 居宅介護支援事業

医療と介護の連携や質の高いケアマネジメントの推進が求められているため、計画的に会議や研修会を開催し職員の資質向上に努めるとともに、多職種連携のもと、日常の様々な場面で本人の潜在能力を引き出すことができるようなケアプランを作成しました。

¹⁵ 暫定：介護保険の要介護認定が確定するまでの間にサービスを利用した件数。

<ケアプラン作成数>

(単位：件)

| 年度 | 要介護 | | 要支援 1・2 | 事業対象 | 合計 |
|----|---------|-----------|---------|------|--------|
| | 要介護 1・2 | 要介護 3・4・5 | | | |
| R4 | 6,769 | 3,525 | 2,741 | 674 | 13,709 |
| R5 | 6,685 | 3,432 | 2,821 | 722 | 13,660 |
| R6 | 6,621 | 3,406 | 3,104 | 793 | 13,924 |

※暫定除く

④ 短期入所事業

利用者やその家族が必要とするときに、必要なサービスを適切に提供できるよう、居宅介護支援事業所との緊密な連携に努めながら職員間で利用者の情報を共有し、安心して利用していただけるように努めました。

短期入所センターおおやまでは特養ユニットにある 2 床を特養に転換、令和 6 年 4 月 1 日から定員を 26 名から 24 名に変更しました。

<短期入所事業利用実績>

| 年度 | おおやま | | | はちもり | | |
|----|---------|-------|-------|---------|-------|-------|
| | 延べ利用人数 | 利用率 | 平均介護度 | 延べ利用人数 | 利用率 | 平均介護度 |
| R4 | 7,518 人 | 79.2% | 2.6 | 2,742 人 | 86.3% | 2.8 |
| R5 | 8,208 人 | 90.6% | 2.6 | 391 人 | 84.1% | 2.5 |
| R6 | 7,599 人 | 91.7% | 2.3 | — | — | — |

※はちもり：令和 5 年 6 月～グループホームへ転換

⑤ 特別養護老人ホーム、グループホーム

利用者一人ひとりのこれまでの生活を理解、尊重するとともに、その人らしさを大切に、家庭的な温かい雰囲気の中で日常生活の支援を行いました。

地域住民の一員として地域行事に参加したほか、季節ごとの施設行事を通して心豊かな生活が送れるよう努めました。

特別養護老人ホームおおやまでは、収支改善と特養入所待機者の緩和を目的に、令和 6 年 4 月 1 日から定員を 124 名から 126 名に変更しました。

<特別養護老人ホームおおやま> R6.4～定員 126 人

| 年度 | 延べ入居人数 | 入居率 | 平均介護度 |
|----|----------|-------|-------|
| R4 | 44,170 人 | 97.6% | 4.0 |
| R5 | 44,342 人 | 97.7% | 4.0 |
| R6 | 44,851 人 | 97.5% | 4.1 |

<グループホームはちもり> R5.6～定員 18 人

| 年度 | 延べ入居人数 | 入居率 | 平均介護度 |
|----|---------|-------|-------|
| R4 | 3,263 人 | 99.3% | 2.7 |
| R5 | 5,786 人 | 95.8% | 2.2 |
| R6 | 6,536 人 | 99.4% | 1.9 |

⑥ 高齢者生活福祉センター（鶴岡市委託事業）

高齢者に対して、生活支援、居住及び交流などを総合的に提供することにより、安心して健康で明るい生活を送れるよう支援しました。

<くしびき高齢者生活福祉センター> 定員 10 人

| 年度 | 延べ入居者数 | 入居者数（一日平均） | 入居率 |
|----|--------|------------|-------|
| R4 | 727 人 | 2.0 人 | 19.9% |
| R5 | 884 人 | 2.4 人 | 24.2% |
| R6 | 641 人 | 1.7 人 | 17.6% |

(4) 独自事業

① 専門職資質向上研修

職員一人ひとりの専門性を高めるため、専門職研修、認知症実践者研修、相談業務等の研修に派遣し専門的ケアの資格者を増やし、サービスの質の向上に努めました。

<研修参加人数と内容>

| | 内 訳 | 参加人数 | 内 容 |
|---------|------------------|------|---|
| 事業推進課企画 | 安全運転研修会 | 46 人 | 表 題：「交通事故防止について」 開催日：令和 6 年 11 月 19 日（火） 講 師：鶴岡警察署交通課 交通係長 小川広太氏 |
| | 虐待防止・身体拘束適正化研修会① | 39 人 | 表 題：「拘束防止に関する研修」 開催日：令和 6 年 7 月 23 日（火） 講 師：一般社団法人 幸せ介護創造ファクトリー 代表理事 高山彰彦氏 ※(株)ビズアップ総研動画研修 |
| | 虐待防止・身体拘束適正化研修会② | 36 人 | 表 題：「虐待防止・身体拘束適正化研修会」 開催日：令和 6 年 12 月 11 日（水） 講 師：山形県社会福祉士会 理事 渡邊 陽氏 |

| | | | |
|-------|--------|-----|--|
| | 事業経営研修 | 55人 | 表題：「社協の存在価値とリーダーシップの重要性～被災地社協の現状から知る「社協のこれから」～」 開催日：令和6年11月19日（火） 講師：社会福祉法人大崎市社会福祉協議会 事務局次長 加藤大介氏 |
| 専門職研修 | 通所介護 | 36人 | 表題：「勤務割表の作成について」 開催日：令和6年10月17日（木） 講師：事業推進課 鈴木祐樹 |
| | 居宅介護支援 | 30人 | 表題：「ヤングケアラーについて」 開催日：令和6年10月16日（月） 講師：一般社団法人 山形県地域包括支援センター等 協議会 コーディネーター 高木知里氏 |
| 派遣研修 | 外部派遣 | 34人 | 大崎市社会福祉協議会視察研修（居宅・通所・障がい） 酒田市社会福祉協議会視察研修（訪問介護） 実践改善・業務効率化セミナー 高齢者福祉関係新任職員研修 カウンセリングゼミナール 職場内ハラスメント防止研修 リーダー育成研修 広報力強化研修 交通安全講習会 |
| | 資格取得派遣 | 26人 | 主任介護支援専門員更新研修 介護支援専門員更新研修（専門研修課程Ⅱ） 認知症介護基礎研修 認知症介護実践者研修 認知症チームケア推進研修 認知症対応型サービス事業管理者研修 障がい者相談支援従事者研修（初任者研修） 障がい者相談支援従事者研修（特別研修） 障がい者相談支援従事者研修（現任研修） サービス管理責任者研修（基礎研修） 強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修） 強度行動障がい支援者養成研修（実践研修） |

| | | | |
|------------------|-------------------|---------|--|
| | | 2 人 | リスクマネジャー養成講座 |
| 各施設研修 (内部・外部) | 居宅介護支援 | 900 人 | 法令遵守・服務規律 他法人との合同事例検討会 身体拘束と虐待 等 |
| | 通所介護 | 864 人 | 虐待防止・身体拘束適正化 感染症予防 認知症の正しい知識と理解 等 |
| | 訪問介護 | 1,102 人 | チームワークの重要性 精神障がい研修 感染症 在宅緩和ケア 虐待防止・身体拘束適正化 等 |
| | おおやま入居 (特養・短期) | 1,310 人 | 理念・法令遵守 感染症対策 窒息・誤嚥 メンタルヘルス リスクマネジメント 等 |
| | グループホーム はちもり | 178 人 | 認知症ケア 食中毒予防 感染対策 虐待防止・身体拘束適正化 等 |
| | 障がいサービス | 474 人 | 虐待防止・身体拘束適正化 意思決定支援研修 等 |
| 合計 (延べ) | | 5,132 人 | |

※合計 (延べ) には障がい福祉サービス事業も含む。

5. 障がい者福祉事業

(1) 総括

利用者が、地域の中で安心して自立した日常生活を送ることができるように、関係機関との連携を図りながら、意思決定の支援を心掛け、利用者の望む暮らしに向けた支援と権利擁護の推進を図りました。

障害者相談支援事業所や他の事業との連携のもと、自立支援の視点を持ちながら一人ひとりのニーズに沿った個別支援を充実させ、利用者に寄り添った支援に努めました。

新型コロナウイルス感染症などの感染症については、感染防止対策の強化を図り、感染症の発生及びまん延等を防止し、利用者や家族介護者が安心して利用できるように取り組みました。

障がい福祉サービスの利用状況を令和5年度と比較すると、就労継続支援で延べ利用者数が528人減、生活介護で延べ利用者数が384人減、訪問介護は延べ訪問回数が92回増となりました。報酬改定の影響により、なえづ生活介護では経営的に厳しい状況が続きましたが、良質な福祉サービスの充実を図り、利用者や家族介護者、地域住民から選ばれる施設を目指しました。

(2) 重点事業

① 障がい福祉サービスの充実

利用者一人ひとりのニーズを的確に把握して、将来を見据えた個別支援計画に基づき、施設内の職員の連携はもとより事業所を超えた多職種が連携し合い、地域の中で暮らす「本人らしい生活」を支えることに努めました。

温海グループホーム茶や町荘は、利用者が地域において共同して、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域行事に参加するなど地域との交流を進めるとともに、日常生活上の援助を適切に行うよう努めました。

② 利用者の権利擁護の取組

利用者に関わる職員全員が倫理観を高めるよう、障害者差別解消法や障害者虐待防止法などの制度の学習を通し、利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

また、虐待防止研修や身体拘束適正化研修、接遇研修を実施するなど職員の意識向上を図りました。

③ 利用者工賃増額の取組

時代に即した製品の開発や品質の向上、ホームページを活用した商品紹介を行いながら販路の拡大等に取り組み、利用者工賃の増額に努めました。

かたぐるまの販売状況は令和5年度比で8万円ほどの収入増となり、1人あたりの平均工賃支給月額が1万2千円を超えました。

もみじが丘の販売状況は令和5年度比で50万円ほどの収入減となりましたが、1人あた

りの平均工賃支給月額が1万5千円を超えました。

④ リスクマネジメントの推進

リスクマネジメント委員会による取組の中で、障がい福祉サービスにおける事故や苦情の分析・評価を明確にし、リスクマネジメントの共有を図るとともに、利用者自らが危険防止に対する活動に参画するなど意識の向上に努めました。

◆介護事故報告

令和6年度の事故件数は27件で、令和5年度比8件減となりました。27件のうち職員の身体事故（労災事故）は1件で、令和5年度比6件減となりました。

<事故件数>

(単位：件)

| 年度 | 骨折・ひび | 服薬関係 | その他のケガ等 擦過傷・アザ等 | 身体以外 連絡忘れ、破損 | 合計 |
|----|-------|------|--------------------|-----------------|----|
| R4 | 0 | 2 | 5 | 9 | 16 |
| R5 | 0 | 1 | 6 | 28 | 35 |
| R6 | 0 | 3 | 5 | 19 | 27 |

⑤ 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症や食中毒などの感染症に対する理解と意識を深めるため、感染症対策委員会を中心に研修の実施やマニュアルの確認などを行うとともに、新型コロナウイルス感染症も含めた感染症発生時における事業継続計画（BCP）を作成しました。

⑥ 災害時における地域と連携した対応

災害が発生した場合に地域組織等との連携・協力が大切であることから、地域で開催された防災訓練に参加したほか、鶴岡市ゆうあいプラザでは、9月に行われた鶴岡市総合防災訓練で福祉避難所運営として参加しました。

⑦ 地域交流・地域貢献の推進

地域の方々との交流や環境美化活動・イベント等への参加を通し、利用者が地域へ出ていく活動を進めると同時に、地域住民から施設に足を運んでいただく機会などをつくり、地域交流の充実を図りました。

(3) 障がい者福祉関連事業

① 就労継続支援事業

利用者が生産活動やその他の活動を通し、自立した日常生活や社会生活が送れるよう就労の機会を提供するとともに、積極的に地域との関わりを深め、施設から情報発信を行い、障がい者理解と協力の輪を広げました。

また、新製品の開発や品質の向上、ホームページを活用した商品紹介を行いながら販路の拡大等に取り組みました。

＜就労継続支援事業B型の延べ利用者数＞ (単位：人)

| 年度 | かたぐるま | もみじが丘 | 合計 |
|----|-------|-------|-------|
| R4 | 4,552 | 4,048 | 8,600 |
| R5 | 4,524 | 3,162 | 7,686 |
| R6 | 4,242 | 2,916 | 7,158 |

② 在宅支援事業

利用者一人ひとりの障がい特性や個別ニーズに応じ、安心して在宅生活が送れるよう職員の資質向上に努め、支援力の向上を図りました。

特に居宅介護・重度訪問介護事業では、職員の障がい者支援の専門性を高めるため、研修会への積極的な参加や施設実習、喀痰吸引等の専門的な資格を取得し、障がい者の在宅生活を支え信頼される事業所を目指しました。

＜生活介護・自立訓練（生活訓練）の利用状況＞

| 年度 | なえづ | | かたぐるま | | わくわく | | もみじが丘 | |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 延べ利用者数 | 平均利用者数 | 延べ利用者数 | 平均利用者数 | 延べ利用者数 | 平均利用者数 | 延べ利用者数 | 平均利用者数 |
| R4 | 2,244 | 8.8 | 8,517 | 27.6 | — | — | 1,931 | 7.2 |
| R5 | 2,184 | 8.5 | 6,638 | 21.5 | 2,063 | 8.4 | 1,708 | 6.3 |
| R6 | 2,202 | 8.5 | 6,011 | 19.4 | 2,528 | 10.0 | 1,468 | 5.5 |

※かたぐるま延べ利用者数に自立訓練（生活訓練）利用者含む。R4.4月から利用者無し。

※なえづR4.4月から土日休業。

※わくわく生活介護・自立訓練（生活訓練）事業所R5.4月から開設。

＜訪問介護事業 延べ利用回数＞ (単位：回)

| 年度 | 居宅介護 | | 重度訪問 | 移動支援 | 合計 |
|----|-------|-------|-------|------|--------|
| | 身体介護 | 家事援助 | | | |
| R4 | 8,568 | 4,655 | 1,289 | 78 | 14,590 |
| R5 | 8,353 | 5,406 | 1,245 | 83 | 15,087 |
| R6 | 7,945 | 6,055 | 1,102 | 77 | 15,179 |

<短期入所事業利用実績>

| 年度 | おおやま | | はちもり | |
|----|--------|-------|--------|-------|
| | 延べ利用人数 | 平均障害度 | 延べ利用人数 | 平均障害度 |
| R4 | 38人 | 5.8 | 362人 | 4.4 |
| R5 | 418人 | 4.9 | 71人 | 4.3 |
| R6 | 438人 | 4.7 | — | — |

※はちもり R5.6月からグループホームに転換。

③ 共同生活援助事業（グループホーム）

利用者が健康で元気に過ごすことができるよう身体状況の変化に早い段階で気づくとともに、感染症予防に留意した適切な環境づくりに取り組みました。

また、温海グループホーム茶ヤ町荘では、津波地震訓練などの地域行事に参加し、地域住民との交流を図りました。

<温海グループホーム茶ヤ町荘> 定員6人（男性）

| 年度 | 延べ入居人数 | 入居人数（実人数） | 入居率 |
|----|--------|-----------|-------|
| R4 | 1,794人 | 5人 | 81.9% |
| R5 | 1,066人 | 4人 | 48.5% |
| R6 | 1,177人 | 5人 | 53.7% |

6. 児童福祉事業

(1) 総括

児童福祉事業では、引き続き適切な感染予防対策を講じながら、子育て家庭を支援し、子どもの健全育成に努めました。

保育所、児童館、放課後児童健全育成事業においては、新型コロナウイルス感染対策の影響により、事業の中止や規模縮小を余儀なくされてきましたが、少しずつ地域との交流活動や世代間交流なども再開することができました。

また、「第三期事業経営計画」の実施スケジュールを確認しながら、各施設における安全計画の策定を進めました。さらに、鶴岡市社協の事業継続計画(BCP)に基づき、施設ごとにBCPの作成にも取り組みました。

(2) 保育所

保育所においては、園児一人ひとりの思いを大切に受け止め、安全で安心して過ごすことのできる環境を整え、健やかな発達を促すため、関係機関と密に連携しながら保育に努めました。

令和7年度の保育園統合に向け、転園後のスムーズな移行を支援するため、各保育園の3・4歳児の交流会を定期的に行いました。また、6年度末をもって閉園となるくしびき東部保育園、くしびき南部保育園では、それぞれ閉園式を実施しました。その後のお別れ見学会では、卒園児や地域の方々が施設を訪れ、園舎や展示アルバムなどを見ながら思い出を語り合うことができました。

<園児数の推移>

(各年度末現在/単位:人)

| 令和5年度 | | 0歳児 | 1歳児 | 2歳児 | 3歳児 | 4歳児 | 5歳児 | 合計 |
|-------|-----------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | くしびき保育園 | 18 | 16 | 22 | | | |
| | くしびき東部保育園 | 3 | 6 | 5 | 9 | 5 | 11 | 39 |
| | くしびき西部保育園 | | | | 21 | 25 | 28 | 74 |
| | くしびき南部保育園 | 3 | 8 | 7 | 6 | 9 | 11 | 44 |
| | 合計 | 24 | 30 | 34 | 36 | 39 | 50 | 213 |

| 令和6年度 | | 0歳児 | 1歳児 | 2歳児 | 3歳児 | 4歳児 | 5歳児 | 合計 |
|-------|-----------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | くしびき保育園 | 12 | 17 | 17 | | | |
| | くしびき東部保育園 | 3 | 5 | 6 | 5 | 9 | 5 | 33 |
| | くしびき西部保育園 | | | | 27 | 22 | 25 | 74 |
| | くしびき南部保育園 | 3 | 3 | 6 | 6 | 5 | 8 | 31 |
| | 合計 | 18 | 25 | 29 | 38 | 36 | 38 | 184 |

(3) 子育て支援センター

くしびき子育て支援センターでは、出生数の減少に伴い利用者数も減少傾向にあります。しかし、鶴岡市や鶴岡市社協のホームページに掲載されるおたよりなどを見て、地域外から参加される方も見受けられました。低年齢でも安心して遊べる遊具を整え、保育環境の充実を図るとともに、主催事業を通して子ども達が遊びながら利用者同士が交流できるようにし、安心して子どもを産み育てられる地域づくりに努めました。

(4) 児童館

鶴岡市からの要請を受け、これまで閉館日としてきた祝日について、7月から輪番制で月1回の臨時開館日を設けました。また、児童館で実施している乳幼児クラブや主催事業については、SNS¹⁶を活用して広く周知することで、施設の認知度が高まり、実際に訪れる利用者が増えたことで、すべての施設の利用率が向上しました。

乳幼児親子が無料で利用できる屋内遊戯施設については、鶴岡市全体の検討課題となっていることから、今後も市と連携して取り組んでいきます。

< 児童館利用状況 >

(各年度末現在/単位：人)

| 令和5年度 | | 中央 | 大山 | 西部 | 南部 | 暘光 | 合計 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|
| | 自由来館 | 14,585 | 1,970 | 6,292 | 5,607 | 4,383 | 32,837 |
| 各種行事等 | 2,778 | 416 | 1,332 | 1,535 | 1,464 | 7,525 | |
| 学童保育 | 11,562 | 13,606 | 18,066 | 32,461 | 32,335 | 108,030 | |
| 合計 | 28,925 | 15,992 | 25,690 | 39,603 | 38,182 | 148,392 | |

| 令和6年度 | | 中央 | 大山 | 西部 | 南部 | 暘光 | 合計 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|
| | 自由来館 | 15,689 | 4,406 | 6,365 | 6,751 | 4,819 | 38,030 |
| 各種行事等 | 2,695 | 398 | 1,447 | 1,537 | 1,132 | 7,209 | |
| 学童保育 | 10,845 | 14,470 | 17,809 | 34,685 | 35,587 | 113,396 | |
| 合計 | 29,229 | 19,274 | 25,621 | 42,973 | 41,538 | 158,635 | |

(5) 学童保育所及び放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）

学童保育所及び放課後児童クラブでは、引き続き感染症対策を実施しながら、児童が安心してのびのびと放課後の時間を過ごせるよう支援しました。

令和5年度末から改修工事を進めてきた、第四学区学童保育所分館（旧鶴岡市立南部保育園）は1日保育が始まる学校の夏季休業に合わせて開所することができました。児童の安全

¹⁶ SNS : Social Networking Service (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の頭文字からとった言葉で、インターネット上で人と人のつながりや交流を楽しむコミュニティ型の会員制サービスのこと。

を確保するため、バスでの送迎を実施するなど、子どもたちはもちろん、保護者も安心して利用できる環境づくりに努めました。

<学童保育登録児童数の推移>

(各年度末現在/単位：人)

| | | 令和5年度 | | 令和6年度 | |
|------|--------|-------|------|-------|------|
| | | 正規登録 | 特定登録 | 正規登録 | 特定登録 |
| 第一学童 | やまびこ楽園 | 28 | 17 | 29 | 15 |
| | こだま楽園 | 34 | 11 | 29 | 16 |
| | 合計 | 62 | 28 | 58 | 31 |
| 大山放兒 | 第1はらっぱ | 36 | 14 | 33 | 12 |
| | 第2はらっぱ | 32 | 16 | 34 | 13 |
| | 合計 | 68 | 30 | 67 | 25 |
| 西部放兒 | ひまわり1組 | 35 | 13 | 38 | 7 |
| | ひまわり2組 | 52 | 8 | 49 | 17 |
| | 合計 | 87 | 21 | 87 | 24 |
| 第一学童 | 星の子 | 32 | 12 | 32 | 14 |
| | 夢の子 | 31 | 11 | 35 | 16 |
| | 空の子 | 38 | 11 | 34 | 8 |
| | 花の子 | 31 | 13 | 40 | 14 |
| | 海の子 | 28 | 11 | 31 | 13 |
| | 合計 | 160 | 58 | 172 | 65 |
| 第四学童 | 太陽の子1 | 42 | 14 | 41 | 8 |
| | 太陽の子2 | 61 | 10 | 46 | 14 |
| | 太陽の子3 | 50 | 20 | 51 | 9 |
| | 太陽の子4 | | | 47 | 3 |
| | 合計 | 153 | 44 | 185 | 34 |
| 総計 | | 530 | 181 | 569 | 179 |

(6) 子育て広場「まんまルーム」

安心・安全で居心地のよい心休まるスペースを求めて来館する方が多く、親子サロンの場所の開放を再開したことで、昼食をとりながらゆっくりと過ごす利用者が増加しました。子育て支援の拠点施設として、保護者同士の関係づくりや育児相談、子育てに関する情報発信など、乳幼児親子を対象とした事業の充実を図りました。

鶴岡市地域子育て支援拠点事業連絡会に参加し、関係機関との連携を密にすることで、支援が必要な乳幼児親子に対する情報交換や共通理解を図ることができました。

7. 苦情報告

令和6年度の苦情件数は41件で、令和5年度と比較すると29件の減となり、苦情解決第三者委員が関わったケースはありませんでした。

苦情の内容としては、職員のスキル・サービスの質、職員の支援内容・方法や職員の言動（言葉遣い・態度）、いわゆる職員の接遇に対する苦情について、令和5年度46件に対し令和6年度は27件となり、大幅に減少しました。また、施設のリスクマネジメント委員会での取組により、荷物に関する苦情も15件から1件となりました。

今後も引き続き「接遇マニュアル」の活用や「コンプライアンス」の意識付けに取り組むとともに、「利用者の声」を大切にしながら質の良いサービスの提供、職員の指導や技術向上に取り組む、サービスの質の向上につながるよう努めます。

< 苦情件数 >

(単位：件)

| 部門 年度 | 事務局・老セン | 通所介護 | 訪問介護 | 居宅介護支援 | 特別養護老人ホーム | 短期入所 | グループホーム | 障がい施設 | 児童館・学童保育所・保育園 | 地域包括支援センター | 福祉センター | 合計 |
|----------|---------|------|------|--------|-----------|------|---------|-------|---------------|------------|--------|----|
| R4 | 0 | 16 | 5 | 3 | 1 | 18 | 0 | 13 | 13 | 2 | 0 | 71 |
| R5 | 0 | 25 | 5 | 4 | 4 | 15 | 1 | 6 | 10 | 0 | 0 | 70 |
| R6 | 0 | 16 | 1 | 7 | 1 | 7 | 1 | 1 | 6 | 0 | 1 | 41 |